

**平成 24 年度被災地における石綿によるばく露に関する調査業務  
報告書**

**平成 25 年 2 月**

**エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社**



## はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災では、建築物の倒壊等により、石綿（アスベスト）の飛散が懸念されていることから、大気濃度調査や防じんマスク着用の周知徹底など、石綿の飛散及びばく露防止のための対策が進められているところです。

現在までのところ、がれき集積所などでは通常の大気環境の状況と大きな変化はないことが確認されていますが、石綿による健康被害は、石綿を吸ってから非常に長い年月（35 年前後）を経て発症することから、被災地の現状について情報収集を行うことが将来の健康相談の実施等に役立つものと考えられます。このため、被災地域に居住し被災された方々に、石綿ばく露に関連する情報である被災前の職歴や被災後の居住歴、避難所での生活の様子等をおたずねするアンケートを実施することとしました。

本調査は環境省より委託を受け、エム・アール・アイ リサーチアソシエーツ株式会社が実施致しました。



## 概 要

### ○ 調査目的

被災地での石綿ばく露の現状を把握するため。

### ○ 調査地域

昨年度調査では、震災の被害が著しい岩手県、宮城県、福島県の3県のうち、浸水面積及び倒壊戸数の両方を指標とし、これらの指標がともに上位にある10市町村を選定した。

本年度調査では、国土交通省の調査結果をもとに、昨年度は調査対象外であった浸水率の高い10市町村を対象として調査を実施した。

＜調査対象市町村＞

岩手県：釜石市、上閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町、九戸郡野田村

宮城県：気仙沼市、多賀城市、亘理郡山元町、宮城郡七ヶ浜町、牡鹿郡女川町、本吉郡南三陸町

### ○ 調査対象者

調査は、仮設住宅に居住している方を対象に実施した。

### ○ 調査方法

調査は、質問紙を用いた調査員による個別面接（集会所での面接もしくは訪問面接）を原則として、一部、留め置きを併用した。

### ○ 調査期間

調査は、平成24年11月17日（土）から平成24年12月2日（日）の間の土曜日及び日曜日に行った。

### ○ 調査結果

326名から回答を得た。なお、調査結果の取りまとめにあたっては、調査方法の違いを区別せずに行った。

#### ➤ 被災前のばく露状況

被災前の職業で、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が18名（9.9%）確認された。また、取扱った職業（作業）に従事していた年数については、昨年度調査と同様「1年未満」が最も多く、「20年以上」の方も数名確認された。

#### ➤ 被災直後から年末までの石綿ばく露に関連する状況

被災直後に生活の拠点としていた場所は、「避難所」が最も多く、次いで「知人・

親戚宅」であったが、6月以降では「仮設住宅」が最も多くなった。また、生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の被害状況としては、期間を問わず「被害はなかった」の占める割合が最も高く、8割前後であった。

自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」方は、3月中が最も多く7割程度で、「ほぼ毎日」立ち入った方が74名（32.6%）で最も多く、「1週間に最低1回以上」（「ほぼ毎日」、「1週間に4、5日程度」、「1週間に2、3日程度」の合計）立ち入った方は7割を超えた。

立ち入りの主目的は、期間を問わず「状況確認（様子を見に行っただけ）」が最も多く、「何らかの作業をされた方」（「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬」、「自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬」、「建物の解体、除去作業」、「物資の運搬や支援」、「泥だし、泥かき」及び「倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け」の合計）は、3月中は5割程度であったが、時間が経過するにつれて徐々に減少していき、8～12月になると3割弱であった。

さらに、活動形態は期間を問わず「自主的な活動（団体等に属さない活動）」が最も多く、従事時間も「1時間未満」が最も多い。

➤ 被災後、年明けから現時点(11月~12月)までの石綿ばく露に関連する状況

被災後、年明けから現時点までの生活状況について伺ったところ、最も多くの時間をとっていたことは、期間を問わず「仕事」が最も多く、外出の頻度においても「ほぼ毎日」が期間を問わず5割を超えた。

被災現場での解体作業場や災害廃棄物仮置場等、作業現場の近くで作業をされたことがあった方は、期間を問わず10名弱であった。

具体的な作業内容としては、期間を問わず「被災現場での建物の解体、除去」近くで作業をされた方の占める割合が最も高い。

また、作業現場の近くを通ったことがあった方は、期間を問わず5割を超えた。その際に気を付けたことがあった方は、期間を問わず4割程度であった。具体的な内容としては、「マスクの着用」が最も多く、次いで「車の窓を開けない」が続く。

➤ 石綿（アスベスト）に関する意識

アスベストに関して、9割以上が「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答しており、そのうち9割以上の方が震災前から「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答している。情報の入手時期としては2000年代が157名（51.6%）と最も多く、情報の入手元としては「テレビ」が8割を超える。

身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方は123名（37.7%）であった。使用されていると思われる場所としては「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」が64名（52.0%）と最も多く、次いで「体育館」（51名、41.5%）、「廃棄物の回収事業所・処分場」（50名、40.7%）と続く。

また、被災後にアスベスト対策について「見た、もしくは聞いたことがある」方は3割弱（96名）で、情報の入手時期は7月以降が62.0%（57名）と最も多く、震災発生から1ヶ月以内に入手した方は2割以下であった。初めて情報を入手した先は「テレビ」が58.3%（56名）と最も多く、その内容はアスベストの処理に関するものや、アスベストの危険性に関するもの、アスベストの吸入防止のための対処法などと多岐にわたる。その情報を受けて行動する際に「気をつけたことがあった」方は4割弱（36名）で、具体的な内容としてはマスクの着用が最も多く6割（22名）を超えた。



## 目 次

1. 調査概要 .....	1
1.1 調査目的 .....	1
1.2 調査地域 .....	1
1.3 調査対象者 .....	3
1.4 調査方法 .....	4
1.5 調査期間 .....	5
1.6 調査内容 .....	6
1.7 有効回答数 .....	7
2. 調査結果 .....	10
2.1 回答者の属性 .....	10
2.1.1 性別 .....	10
2.1.2 年代 .....	11
2.2 被災前の石綿ばく露に関する状況 .....	12
2.2.1 生活歴 .....	12
2.2.2 職業歴 .....	13
2.2.3 まとめ .....	17
2.3 被災後の石綿ばく露に関する状況 .....	18
2.3.1 平成23年の状況 .....	18
2.3.2 平成24年の状況 .....	40
2.3.3 まとめ .....	50
2.4 石綿（アスベスト）に関する意識 .....	51
2.4.1 被災前の石綿（アスベスト）に関する情報入手状況 .....	51
2.4.2 アスベストに関する意識 .....	55
2.4.3 被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況 .....	57
2.4.4 まとめ .....	63
3. まとめ .....	64

参考資料 1 挨拶状

参考資料 2 調査票



## 1. 調査概要

### 1.1 調査目的

東日本大震災による被災地においては、建築物の倒壊や膨大な災害廃棄物処理等により、石綿による将来の健康被害が懸念されている。石綿による健康被害はばく露から数十年後に発症するものであり、震災後の被災地における石綿ばく露の状況を把握しておくことは将来のリスク管理のために重要と考えられる。このため、現地での被災者に聞き取り調査を行うことにより、被災地での石綿ばく露の現状を把握した。

### 1.2 調査地域

昨年度調査では、震災の被害が著しい岩手県、宮城県及び福島県の3県のうち、浸水面積及び倒壊戸数の両方を指標とし、これらの指標がともに上位にある10市町村を選定した。

本年度調査では、国土交通省の調査結果<sup>1</sup>をもとに、昨年度は調査対象外であった浸水率（津波浸水範囲に含まれる建物数／全建物数）の高い10市町村を対象として調査を実施した。

なお、塩竈市については現地調査実施に関する了承が期間内に得られなかったため、宮城県七ヶ浜町に調査地点を変更した。

表1 調査対象市町村

県別	市町村数	市町村名	
岩手県	7	23年度(3)	陸前高田市、宮古市、大船渡市
		24年度(4)	釜石市、上閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町、九戸郡野田村
宮城県	10	23年度(4)	石巻市、仙台市、東松島市、亶理郡亶理町
		24年度(6)	気仙沼市、多賀城市、亶理郡山元町、宮城県七ヶ浜町、牡鹿郡女川町、本吉郡南三陸町
福島県	3	23年度(3)	南相馬市、相馬市、いわき市
		24年度(0)	—

<sup>1</sup> 国土交通省国土政策局国土情報課「東北地方太平洋沖地震における津波被害市区町村の浸水被害建物数計測について」(URL：<http://www.mlit.go.jp/common/000162412.pdf>)

表2 市区町村別浸水率（降順）

区分 (○：今年度対象、 □：昨年度対象)	市区町村	①全建物 数	②津波浸 水範囲に 含まれる 建物数	③倒壊戸 数(住家の み) <sup>2</sup>	浸水率 (②/①)	倒壊率 (③/①)	仮設住宅	
							箇所数	戸数
○	岩手県上閉伊郡大槌町	11,869	7,322	3,717	61.69%	31.32%	48	2,146
□	宮城県東松島市	27,235	16,794	11,012	61.66%	40.43%	25	1,753
○	宮城県牡鹿郡女川町	7,244	4,411	3,261	60.88%	45.02%	30	1,294
○	宮城県本吉郡南三陸町	12,713	6,871	3,311	54.04%	26.04%	58	2,195
□	宮城県石巻市	112,146	59,405	33,378	52.97%	29.76%	131	7,297
○	岩手県下閉伊郡山田町	14,720	6,057	3,167	41.15%	21.51%	49	1,990
○	宮城県亶理郡山元町	13,120	5,344	3,292	40.73%	25.09%	11	1,030
□	岩手県陸前高田市	21,968	8,695	3,341	39.58%	15.21%	53	2,168
□	宮城県亶理郡亶理町	22,624	7,752	3,353	34.26%	14.82%	5	1,126
○	宮城県気仙沼市	52,525	15,800	11,034	30.08%	21.01%	93	3,504
○	岩手県九戸郡野田村	3,825	1,126	479	29.43%	12.52%	5	213
—	宮城県塩竈市	26,496	7,723	4,470	29.15%	16.87%	7	206
○	宮城県多賀城市	22,524	6,343	4,942	28.16%	21.94%	6	373
□	岩手県大船渡市	31,772	8,437	3,629	26.55%	11.42%	39	1,811
○	岩手県釜石市	28,406	7,453	3,648	26.24%	12.84%	50	3,164
○	宮城県宮城郡七ヶ浜町	10,588	2,765	1,303	26.11%	12.31%	7	421
—	宮城県岩沼市	20,682	5,304	2,165	25.65%	10.47%	—	—
—	福島県相馬郡新地町	7,231	1,781	566	24.63%	7.83%	—	—
□	岩手県宮古市	45,438	11,000	4,675	24.21%	10.29%	62	2,010
—	宮城県名取市	32,954	5,905	3,914	17.92%	11.88%	—	—
—	岩手県下閉伊郡田野畑村	3,695	585	270	15.83%	7.31%	—	—
□	宮城県仙台市宮城野区	54,382	8,532	不明	15.69%	—	8	576
□	福島県相馬市	26,759	4,182	1,767	15.63%	6.60%	13	1,500
—	宮城県宮城郡松島町	9,255	1,188	1,783	12.84%	19.27%	—	—
—	宮城県仙台市若林区	42,452	4,861	不明	11.45%	—	—	—
□	福島県南相馬市	54,383	5,502	6,738	10.12%	12.39%	26	2,665
—	福島県双葉郡浪江町	4,730	403	614	8.52%	12.98%	—	—
—	福島県双葉郡双葉町	7,548	643	83	8.52%	1.10%	—	—
—	福島県双葉郡広野町	17,035	1,452	不明	8.52%	—	—	—
—	茨城県東茨城郡大洗町	12,436	980	297	7.88%	2.39%	—	—
—	茨城県北茨城市	32,440	2,516	1,395	7.76%	4.30%	—	—
○	岩手県久慈市	30,983	2,257	277	7.29%	0.89%	—	—
□	福島県双葉郡楢葉町	7,802	568	50	7.28%	0.64%	—	—
○	岩手県下閉伊郡普代村	2,320	157	0	6.77%	0.00%	—	—
○	千葉県山武郡九十九里町	16,740	872	70	5.21%	0.42%	—	—
□	福島県いわき市	231,205	11,226	37,707	4.86%	16.31%	32	3,472

2 消防庁「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）について（第144報）」  
 (URL : <http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou/pdf/jishin/144.pdf>)

なお、倒壊戸数は全壊＋半壊数にて算出し、一部破損、非住家は含まない。

### 1.3 調査対象者

調査は、仮設住宅に居住している方を対象に実施した。

仮設住宅の選定にあたっては、環境省もしくは自治体を実施しているアスベスト大気濃度調査のモニタリング地点の住所情報を確認のうえ、モニタリング地点の住所情報が確認できた市区町村についてはモニタリング地点に近い仮設住宅を 5 箇所抽出した。また、モニタリング地点が確認できなかった市区町村については、戸数の多い仮設住宅を 5 箇所抽出した。

さらに自治体に対し、抽出した 5 箇所の候補地点から調査の実施について自治体の了承をいただける 2 箇所に絞り込みをいただけるよう依頼した。

最後に、2 箇所に絞り込んだ仮設住宅について、調査の実施について自治会長もしくは当該仮設住宅の連絡窓口を担当している自治体職員から了承をいただいた仮設住宅を対象に調査を実施した。

表 3 仮設住宅の選定方法

ステップ	内容
ステップ 1 (～10 月下旬)	以下のいずれかの条件を満たす仮設住宅を 5 箇所抽出。 ・環境省もしくは自治体を実施しているアスベスト大気濃度調査のモニタリング地点に近い仮設住宅 ・戸数の多い仮設住宅
ステップ 2 (～11 月上旬)	ステップ 1 で抽出した 5 箇所のうち、以下の条件を満たす 2 箇所を抽出いただけるよう、自治体に依頼。 ・調査の実施について自治体の了承をいただける仮設住宅
ステップ 3 (～11 月末)	ステップ 2 にて絞り込んだ仮設住宅について、調査実施のための事前調整を行った。調整内容は以下のとおり。なお、自治会長から依頼があった場合には事前に往訪のうえ調整を行った。 ・調査の実施について自治会長もしくは当該仮設住宅の連絡窓口を担当している自治体職員 <sup>3</sup> の了承をいただく ・調査期間内に調査を実施する

<sup>3</sup> 自治会が形成されていない仮設住宅もあったため、当該地点については、当該仮設住宅の連絡窓口を担当している自治体職員と調整を行った。

#### 1.4 調査方法

調査は、質問紙を用いた調査員による個別面接（集会所での面接もしくは訪問面接）を原則として、一部、留め置きを併用<sup>4</sup>した。

表 4 調査地点及び調査方法

県	市町村	調査地点	調査方法
岩手県	釜石市	釜石市平田仮設団地	訪問面接
		釜石市平田第2仮設団地	訪問面接
	大槌町	大槌町大槌第5仮設団地	訪問面接
		大槌町小槌第8仮設団地	訪問面接
	山田町	船越第8仮設団地	訪問面接
	野田村	野田村野田（中学校）仮設団地	集会所での面接
宮城県	気仙沼市	大谷中学校住宅	集会所での面接
	多賀城市	多賀城公園野球場	集会所での面接
	山元町	浅生原東田仮設団地	集会所での面接
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	留め置き
		七ヶ浜中学校第2グラウンド	集会所での面接
	女川町	運動公園野球場	集会所での面接
		運動公園第一多目的運動場	訪問面接
	南三陸町	戸倉中学校	集会所での面接
神割崎キャンプ場		集会所での面接	

<sup>4</sup> 調査実施のための事前調整の際に、自治会長より留置法による調査実施を強く依頼された地点については留置法とした。留置法は面接法に比べ、回答内容の精度が落ちることが懸念されるが、調査票の回収時に回答内容を確認させてもらうなどにより、できる限り面接法の回答精度に近づけるよう努めた。

## 1.5 調査期間

調査は、平成 24 年 11 月 17 日（土）から平成 24 年 12 月 2 日（日）の間の土曜日及び日曜日に行った。休日に調査を行ったのは、主に以下の理由によるものである。

- ・平日の仮設住宅には高齢者の在室率が高く、調査結果に偏りが生じるおそれがある
- ・平日の仮設住宅は不在率が高く、目標回答数を得られないおそれがある

表 5 調査地点別調査日

県	市町村	調査地点	調査日
岩手県	釜石市	釜石市平田仮設団地	12/1（土）
		釜石市平田第 2 仮設団地	12/1（土）
	大槌町	大槌町大槌第 5 仮設団地	11/25（日）
		大槌町小槌第 8 仮設団地	11/25（日）
	山田町	船越第 8 仮設団地	11/24（土）
	野田村	野田村野田（中学校）仮設団地	11/25（日）
宮城県	気仙沼市	大谷中学校住宅	11/18（日）
	多賀城市	多賀城公園野球場	12/1（土）
	山元町	浅生原東田仮設団地	11/17（土）
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	12/2（日）
		七ヶ浜中学校第 2 グラウンド	12/2（日）
	女川町	運動公園野球場	12/2（日）
		運動公園第一多目的運動場	12/2（日）
	南三陸町	戸倉中学校	11/17（土）、18（日）
		神割崎キャンプ場	11/18（日）

## 1.6 調査内容

調査項目は、1) 被災前のばく露に関する状況（生活歴、職業歴）、2) 被災後のばく露に関する状況（平成 23 年における建物が倒壊した地域への立ち入り状況等及び平成 24 年における生活状況等）及び3) 石綿（アスベスト）に関する意識とした。詳細は以下のとおり。

<調査項目>

- 基本情報（性別・年齢）
- 被災前の石綿ばく露に関する状況
  - ・生活歴、職業歴
- 被災後の石綿ばく露に関する状況
  - 【平成 23 年】**
    - ・生活拠点及びその被害状況
    - ・生活拠点近くにある建物の状況
    - ・建物が倒壊した地域への立ち入り状況
    - ・建物が倒壊した地域での作業状況
  - 【平成 24 年】**
    - ・日常生活の状況
    - ・外出状況
    - ・災害廃棄物との関係性
- 石綿（アスベスト）に関する意識
  - ・被災前後のアスベストに関する情報入手状況等

調査項目の検討にあたっては、厚生労働省が平成 17 年度に取りまとめた「石綿ばく露歴把握のための手引」を参考とした。また、既存調査との重複を避け、調査対象者が回答する際に過度な負担を強いるものにならないよう、分量等に留意して作成した。

## 1.7 有効回答数

調査は計 300 名程度から回答を得られるよう、1 仮設住宅あたり平均 30 名程度の回答を目標とした。

その結果、326 名から回答を得た。調査地点別の回収状況は以下のとおり。

表 6 調査地点別回収状況

県	市町村	調査地点	戸数	訪問数	回収数	不在	拒否
岩手県	釜石市	釜石市平田仮設団地	111	59	15	43	1
		釜石市平田第 2 仮設団地	123	119	15	93	11
	大槌町	大槌町大槌第 5 仮設団地	273	20	2	17	1
		大槌町小槌第 8 仮設団地	120	86	34	49	3
	山田町	船越第 8 仮設団地	108	104	30	67	7
	野田村	野田村野田（中学校）仮設団地	128	111	30	73	8
宮城県	気仙沼市	大谷中学校住宅	186	148	33	98	17
	多賀城市	多賀城公園野球場	162	132	31	82	19
	山元町	浅生原東田仮設団地	159	150	32	96	22
	七ヶ浜町	総合スポーツセンター	151	24	21	3	0
		七ヶ浜中学校第 2 グラウンド	106	82	15	63	4
	女川町	運動公園野球場	189	40	22	9	9
		運動公園第一多目的運動場	154	9	9	0	0
	南三陸町	戸倉中学校	67	60	28	18	14
神割崎キャンプ場		31	18	9	8	1	
計			2,068	1,162	326	719	117



(釜石市)



(大槌町)



(山田町)



(野田村)



(気仙沼市)



(多賀城市)



(山元町)



(七ヶ浜町)



(女川町)



(南三陸町)

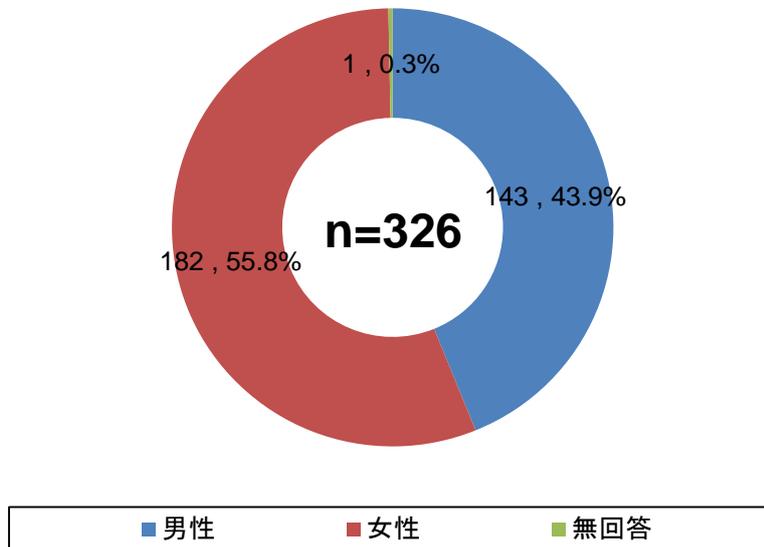
図1 調査実施風景



## 2. 調査結果<sup>5</sup>

### 2.1 回答者の属性

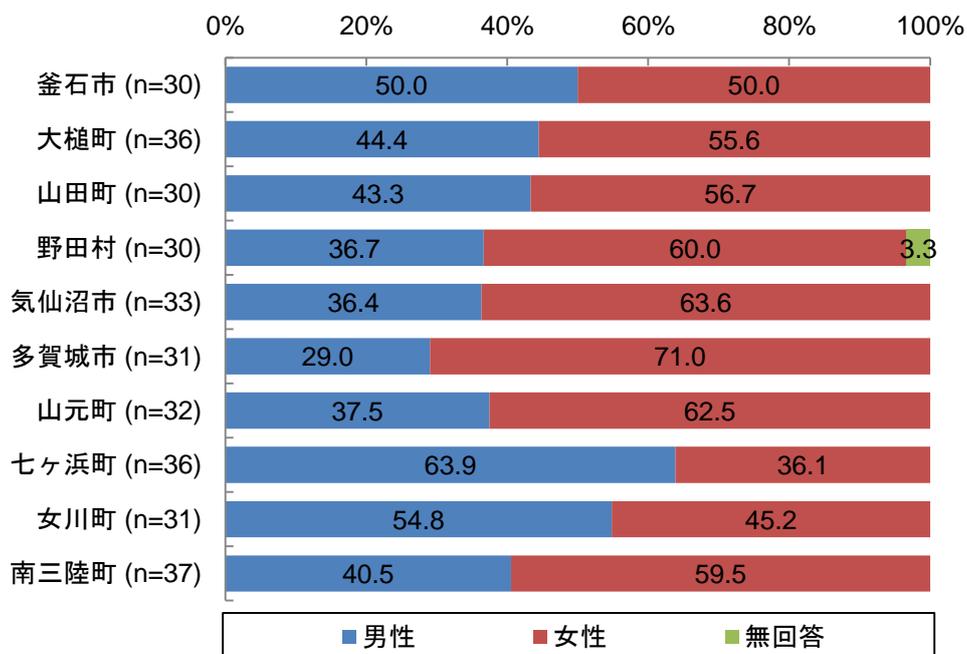
#### 2.1.1 性別



全体としては女性の方がやや多かった。

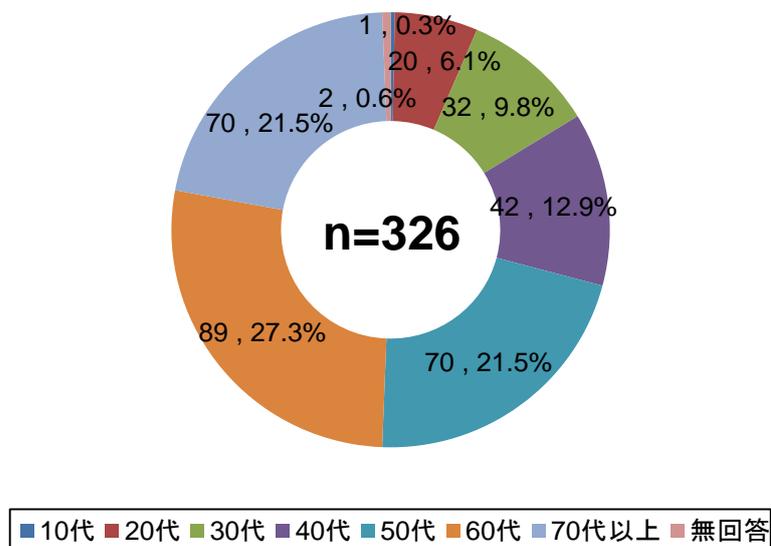
市町村別にみると、七ヶ浜町では男性が7割弱だったが、多賀城市では女性が7割を超えた。

#### 《属性別集計》



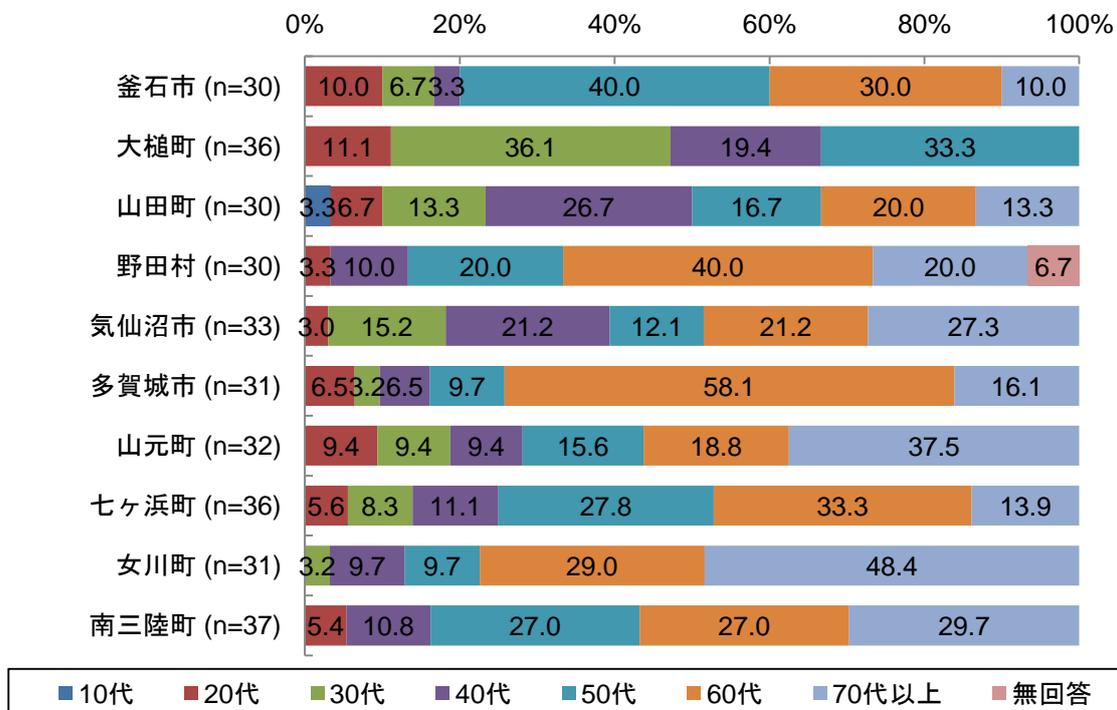
<sup>5</sup> 調査結果の取りまとめにあたっては、調査方法の違いを区別せずに行った。

## 2.1.2 年代



全体としては60代が最も多い（3割弱）が、50代以下が占める割合は5割を超える。市町村別にみると、山元町及び女川町では70代以上が占める割合が高い。

《属性別集計》

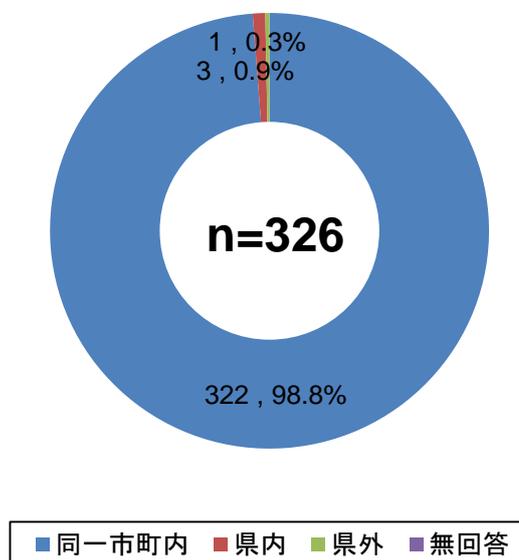


## 2.2 被災前の石綿ばく露に関する状況

### 2.2.1 生活歴

問1 被災前の居住地域をご回答ください。【〇は1つ】

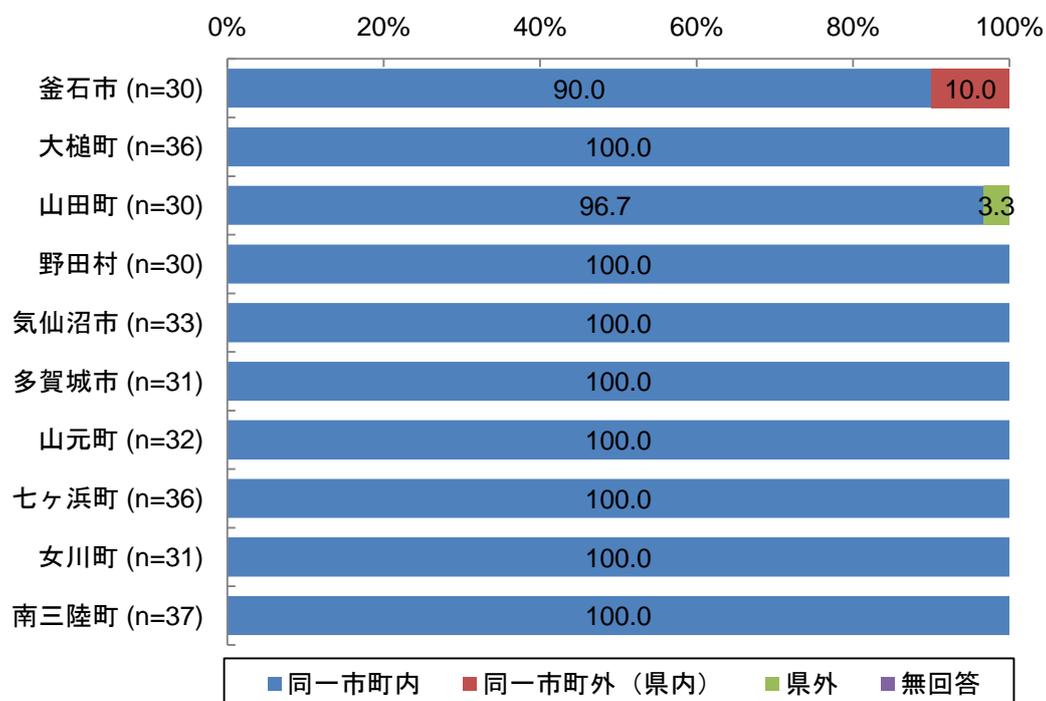
(被災前：居住地域)



全体としては、ほとんどの方が被災前後で居住地は変わっていない。

市町村別にみると、釜石市及び山田町では、被災後に県内の他の市町村もしくは県外から居住地を変更された方が数名いた。

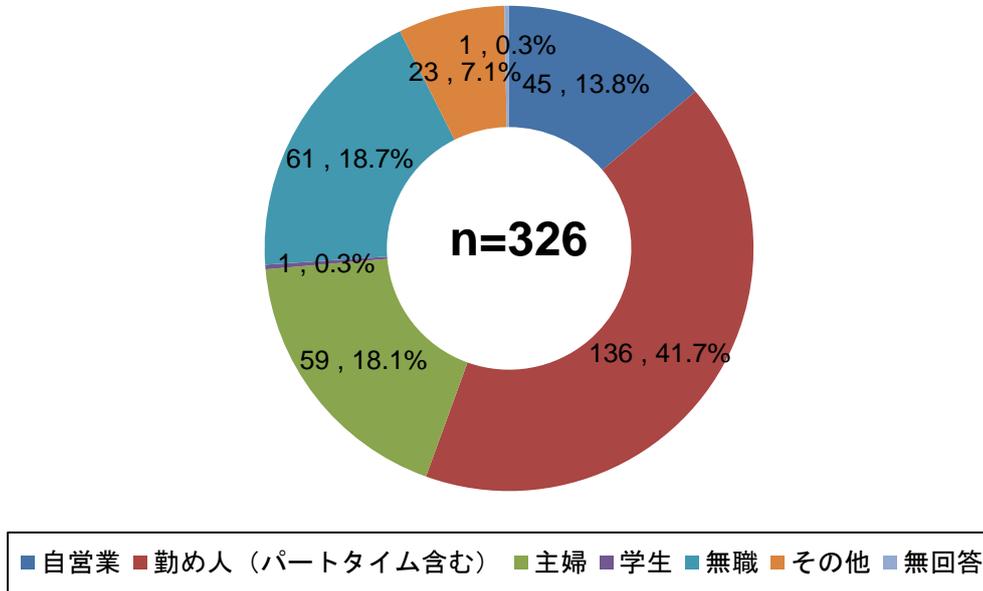
《属性別集計》



## 2.2.2 職業歴

問2 被災前の職業をご回答ください。【〇は1つ】

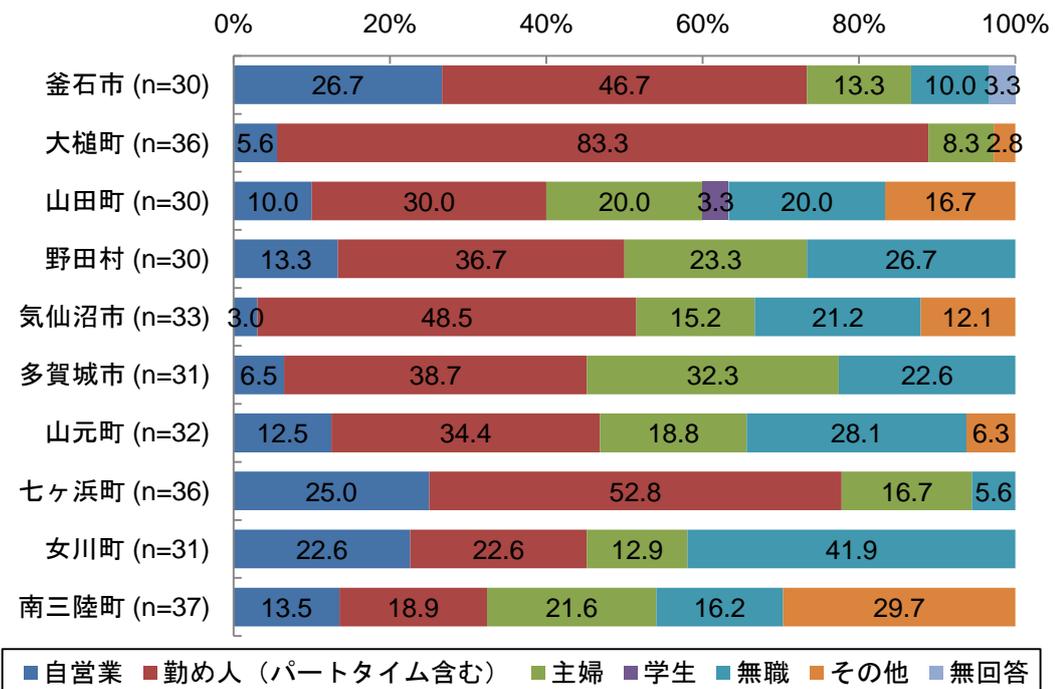
(被災前：職業)



被災前の職業は、「勤め人 (パートタイム含む)」が136名 (41.7%) と最も多く、「自営業」(45名、13.8%) とあわせると5割を超える。

市町村別にみると、大槌町では「勤め人 (パートタイム含む)」が占める割合は8割を超える。

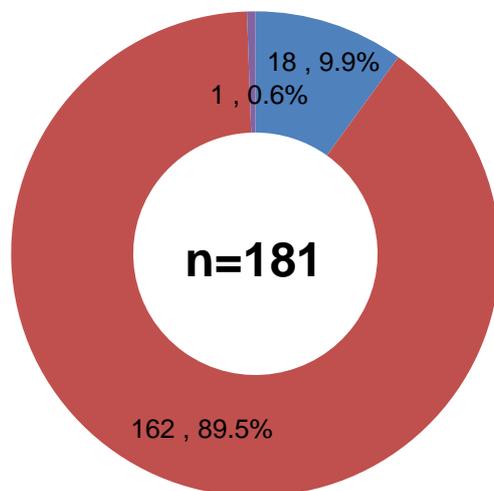
《属性別集計》



問3 被災前の職業（作業）で「アスベスト」または「石綿」を扱ったことがありますか。

【〇は1つ】

（被災前：アスベストの取り扱い有無）



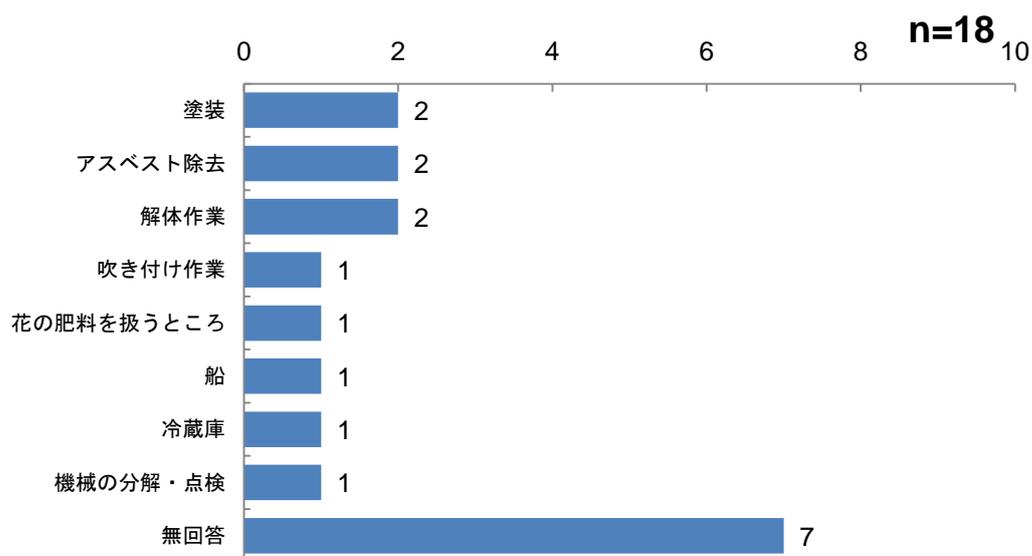
■あると思う ■ないと思う ■わからない ■無回答

被災前の職業が「自営業」もしくは「勤め人（パートタイム含む）」と答えた方に対し、「アスベスト」または「石綿」の取り扱い有無の認識を聞いたところ、回答者の認識として取り扱ったことが「あると思う」方は18名（9.9%）だった。

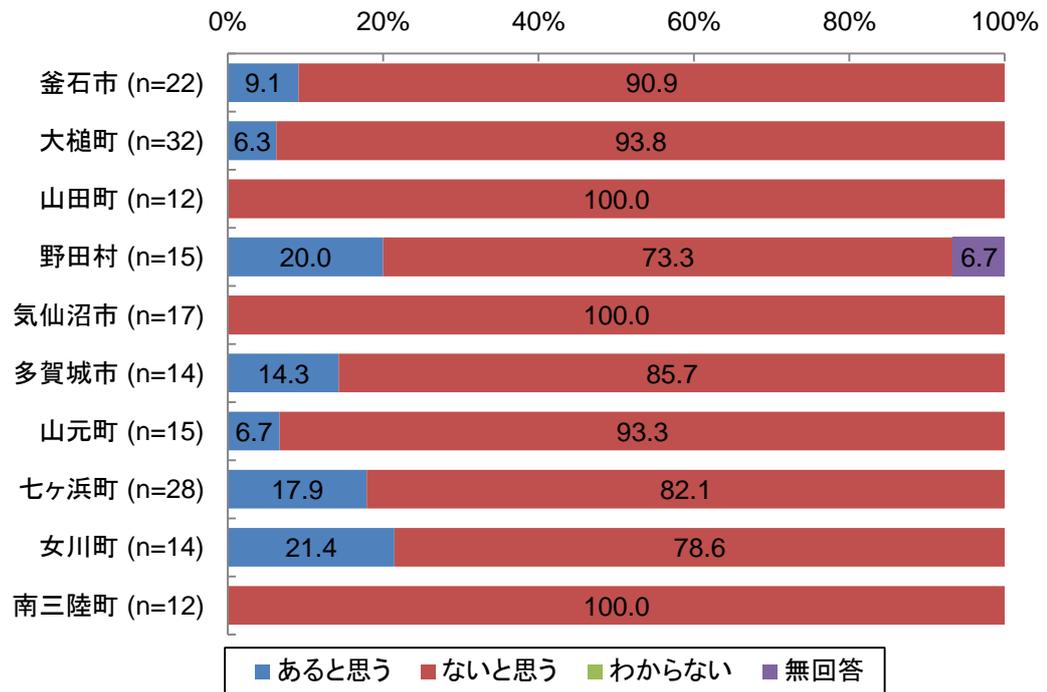
作業内容としては、「塗装」、「アスベスト除去」、「解体作業」等の回答がみられた。

市町村別にみると、野田村及び女川町では「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が2割を超える。

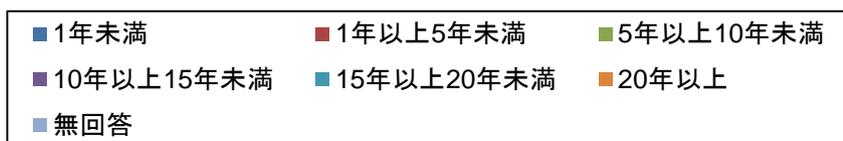
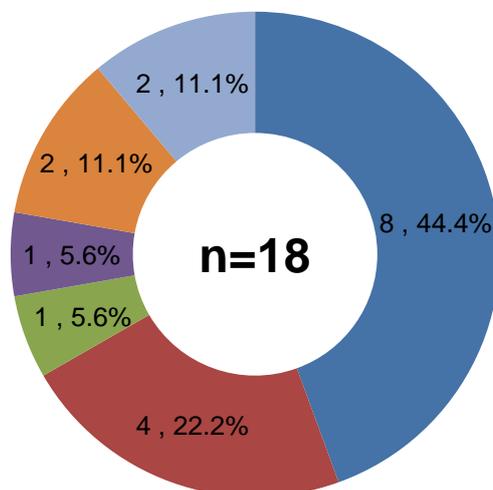
《具体的な作業内容》



《属性別集計》

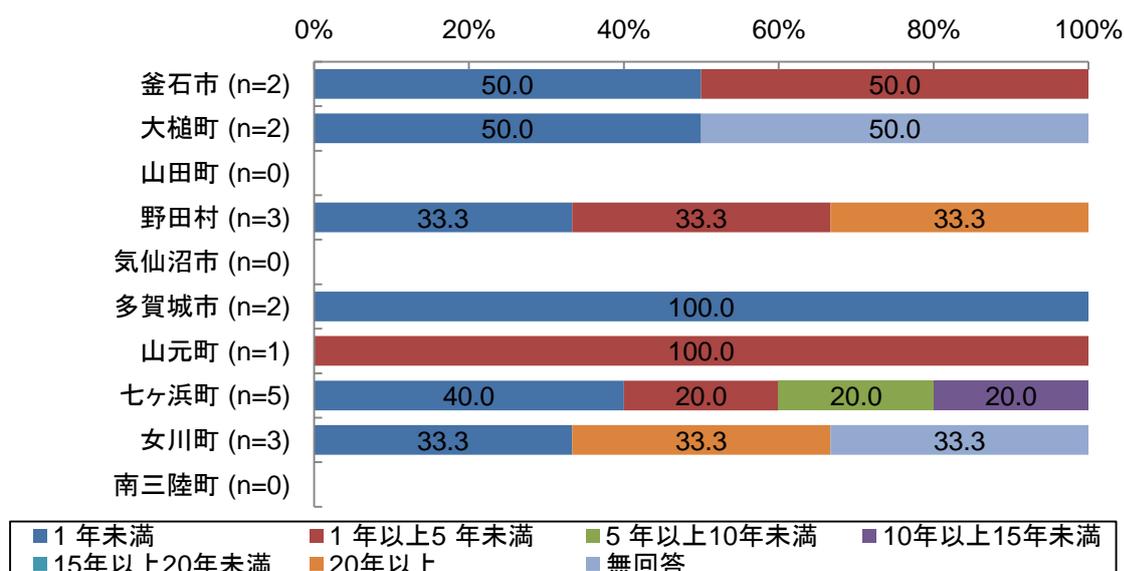


問4 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業（作業）に従事していた年数（合計）をご回答ください。【〇は1つ】  
 （被災前：アスベストの取り扱い年数）



回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方に対し、取扱った職業(作業)に従事していた年数を聞いたところ、「1年未満」が8名(44.4%)と最も多かった。また、「20年以上」の方も2名確認された。

《属性別集計》



### 2.2.3 まとめ

被災前のばく露状況について、職業由来のばく露の可能性について整理した。

職業由来のばく露の可能性としては、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が合計 18 名（10 市町村中 7 市町村）確認された。

取扱った職業（作業）に従事していた年数については「1 年未満」が最も多いが、「20 年以上」の方も数名確認された。

## 2.3 被災後の石綿ばく露に関する状況

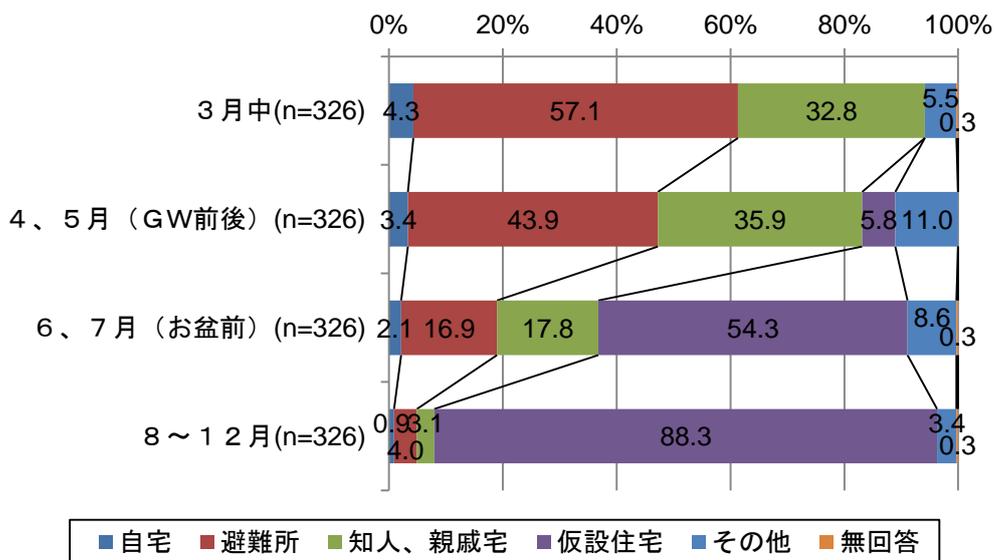
### 2.3.1 平成23年の状況

問5-1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(1) 生活の拠点にしていた場所についてご回答ください。

【滞在した時間が最も長い地点1つに◎、その他滞在した地点すべてに○】

(滞在した時間が最も長い地点)

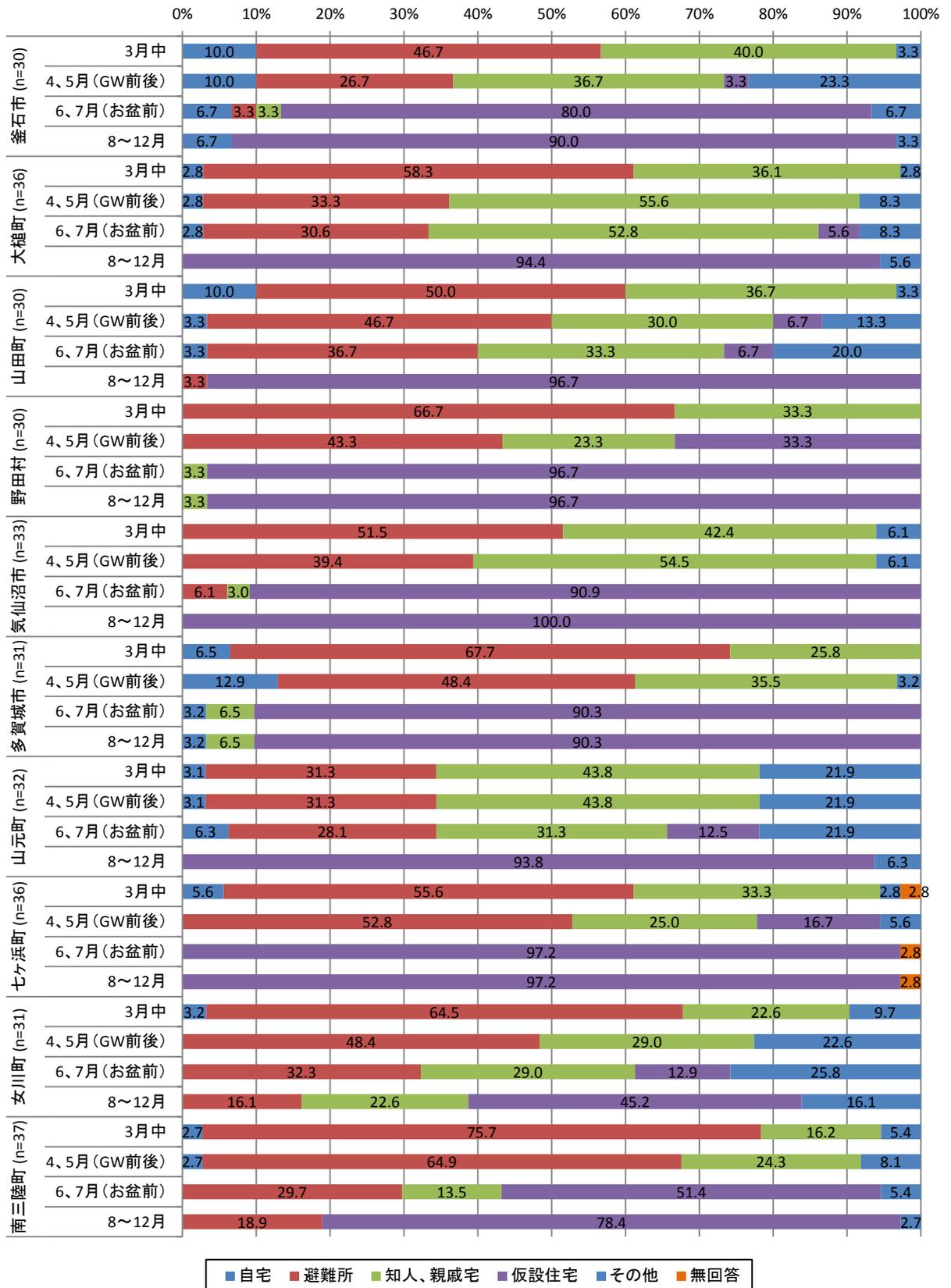


生活の拠点にしていた場所としては、3月中は「避難所」の占める割合が最も高く、5割を超える。また、時間が経過するにつれ「避難所」の占める割合は減少し、6、7月（お盆前）になると「仮設住宅」の占める割合が最も高く、5割を超える。

滞在した地点としては、最大で4地点の方が1名（3月中）いた。

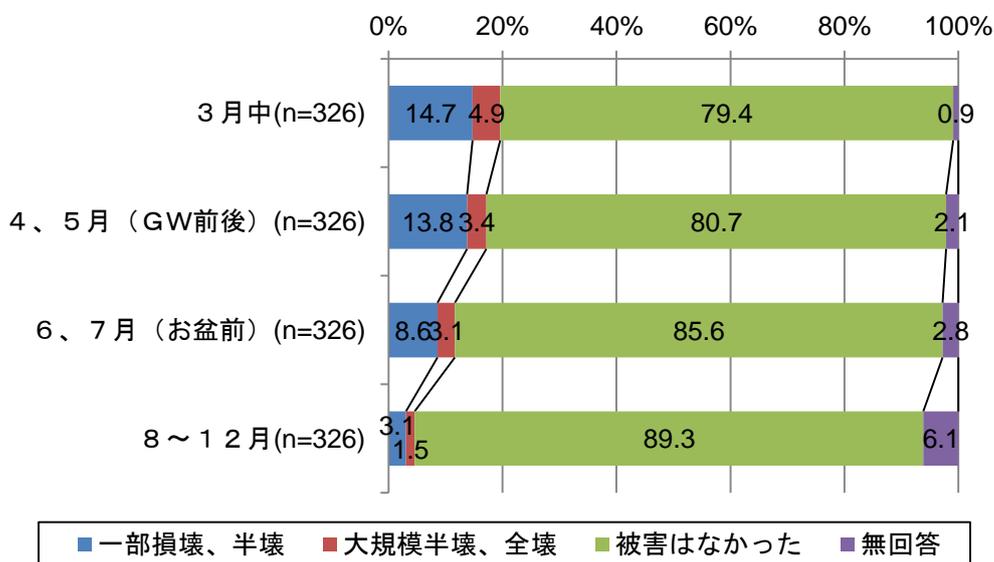
市町村別にみると、女川町及び南三陸町では、8～12月においても1割程度の方が「避難所」を生活の拠点にしていたとの回答があった（女川町では11月9日に、南三陸町では10月21日に避難所が閉鎖された）。

《属性別集計》



問5－1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

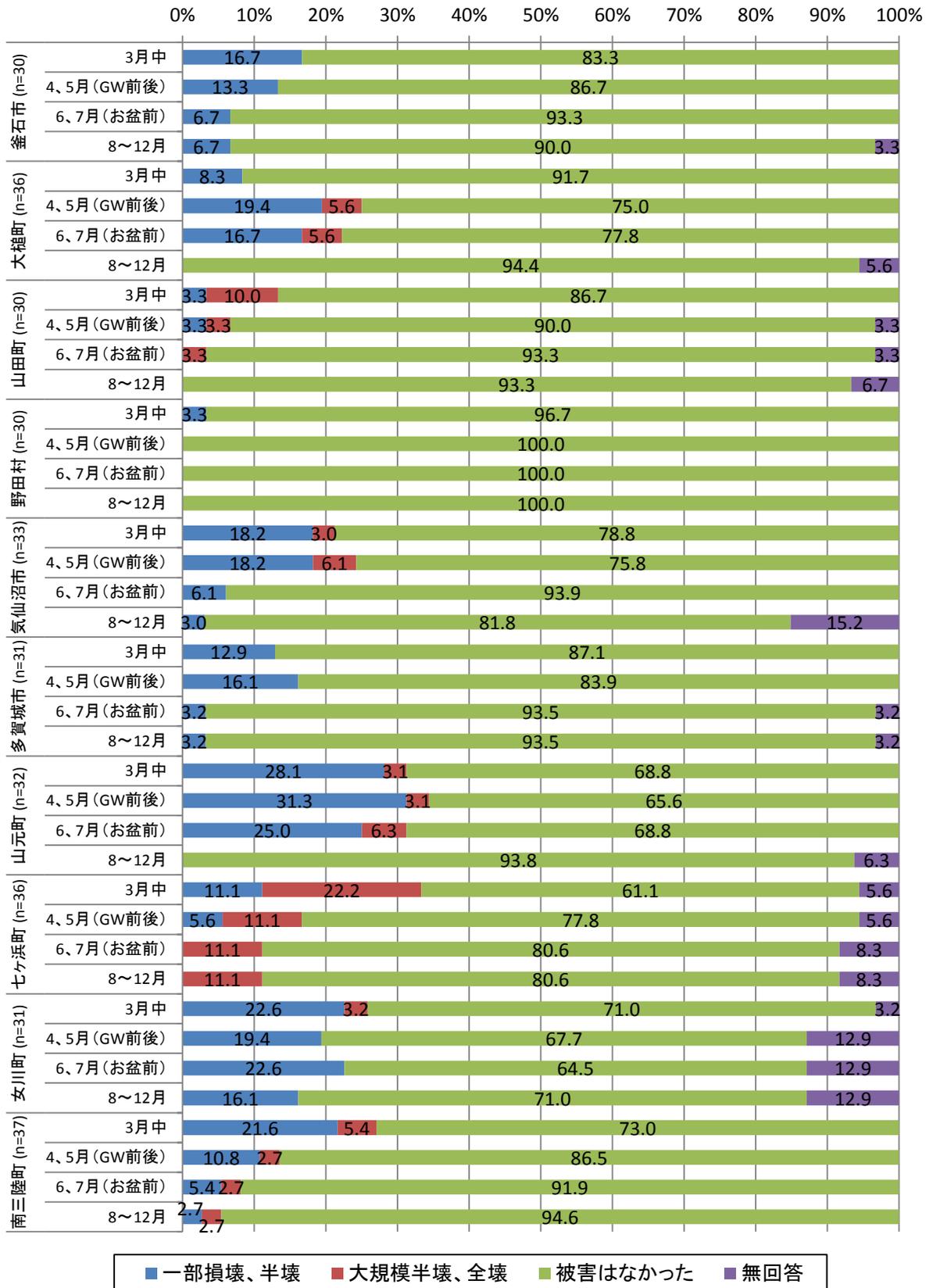
(2)(1)で◎を選択した場所の被害状況についてご回答ください。【〇は1つ】  
(滞在した時間が最も長い地点の被害状況)



生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の被害状況としては、期間を問わず「被害はなかった」の占める割合が最も高く、8割前後であった。

「一部損壊、半壊」もしくは「大規模半壊、全壊」と回答した方が生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）としては、「避難所」の占める割合が最も高く、約半数程度であった。

《属性別集計》

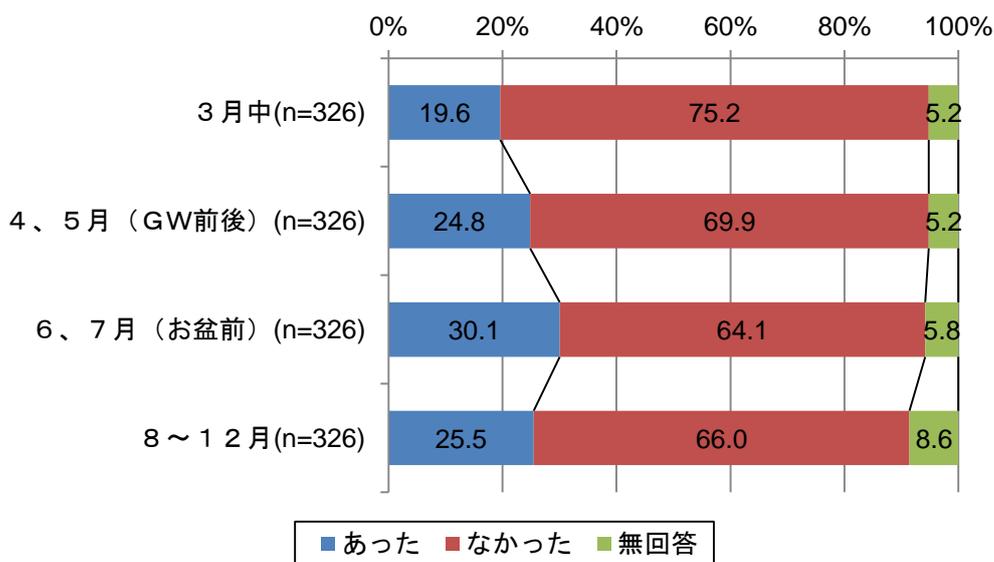


問5-1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(3)(1)で◎を選択した場所の近くに、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した以下の建物、構造物等がありましたか。【○は該当するものいくつかでも】

\*建物、構造物等： 建材物置場、自動車修理工場、廃棄物の回収事業所・処分場（がれき集積所）、造船所、学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）、体育館、駅、立体駐車場、倉庫（冷蔵・冷凍施設含む）、廃棄物の運搬道路等

(生活の拠点にしていた場所近くの施設の有無)

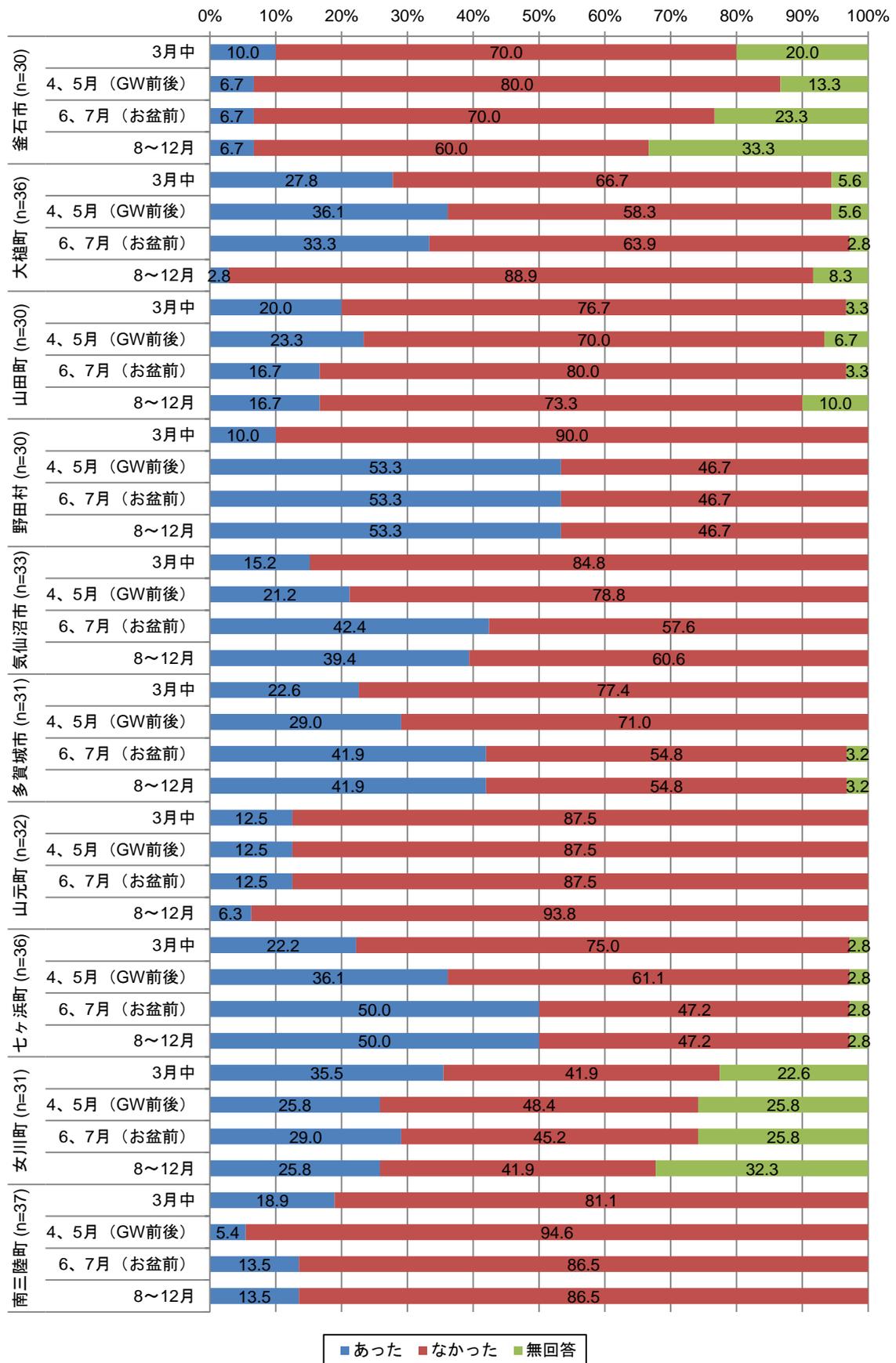


生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の近くに一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した建物、構造物等が「あった」と認識されている方は、2割程度であった。

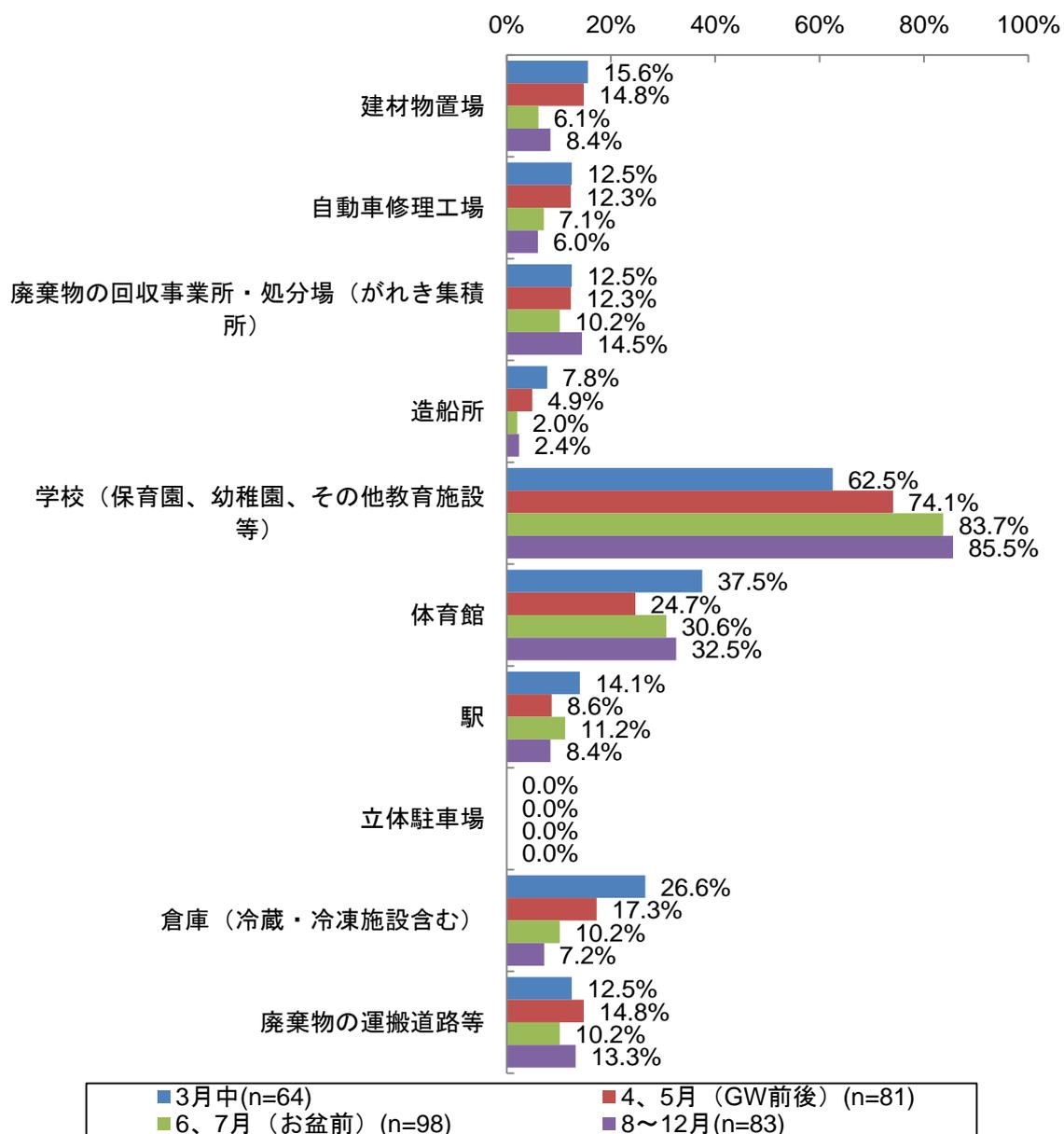
具体的な施設としては、いずれの期間においても「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」が最も多く、6割を超えた。

市町村別にみると、野田村では4、5月（GW 前後）以降、また多賀城市では7、8月（お盆前）以降、生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の近くに一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した建物、構造物等が「あった」と認識されている方の占める割合が、5割程度であった。

《属性別集計》



(生活の拠点にしていた場所近くにあった施設)

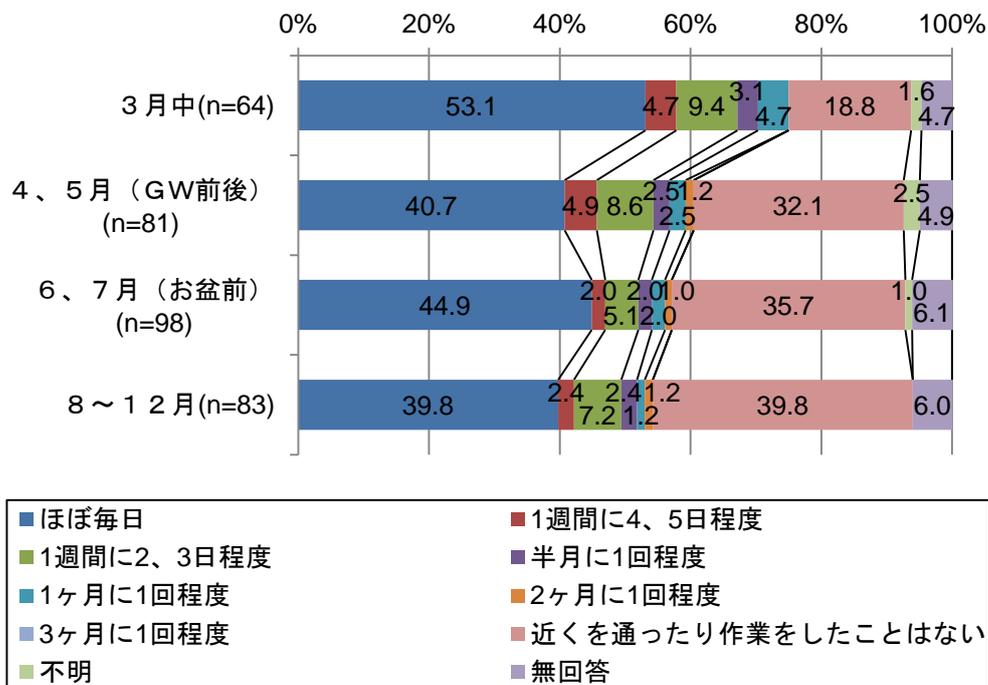




問5-1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(4)(3)で選択した建物、構造物の近くを通ったり、近くで作業をした頻度をご回答ください。【〇は1つ】

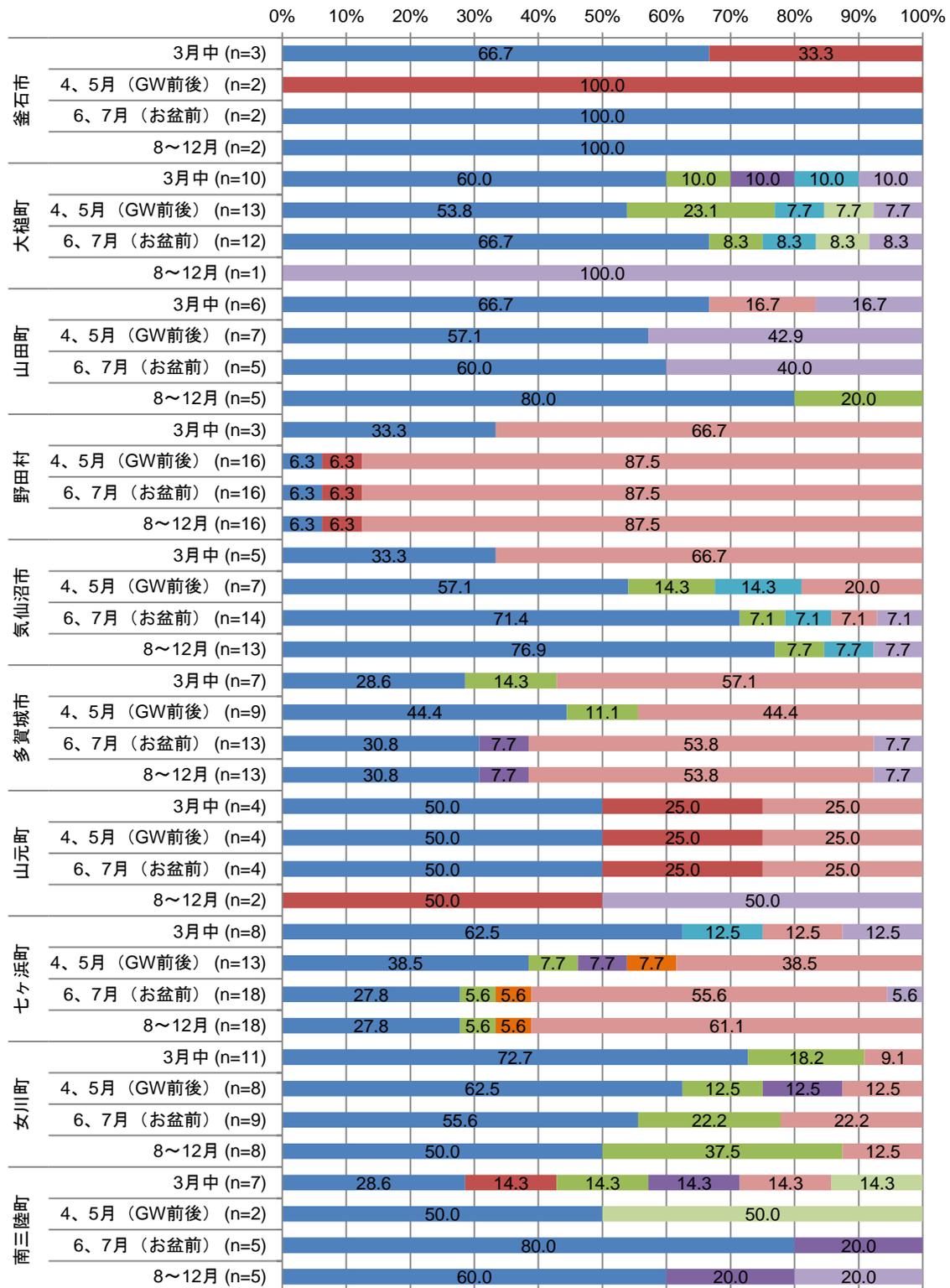
(生活の拠点にしていた場所近くにある建物、構造物等の近くを通ったり、近くで作業をした頻度)



生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）近くにある建物、構造物等の近くを通ったり、近くで作業をした頻度としては、3月中は「ほぼ毎日」の占める割合が最も高く、5割を超える。また、時間が経過するにつれ「ほぼ毎日」の占める割合は減少し、8～12月になると「近くを通ったり作業をしたことはない」の占める割合と同数になった。

市町村別にみると、女川町では時間が経過するにつれ「ほぼ毎日」の占める割合が低くなっているが、山田町では時間が経過するにつれ「ほぼ毎日」の占める割合が高くなっている。

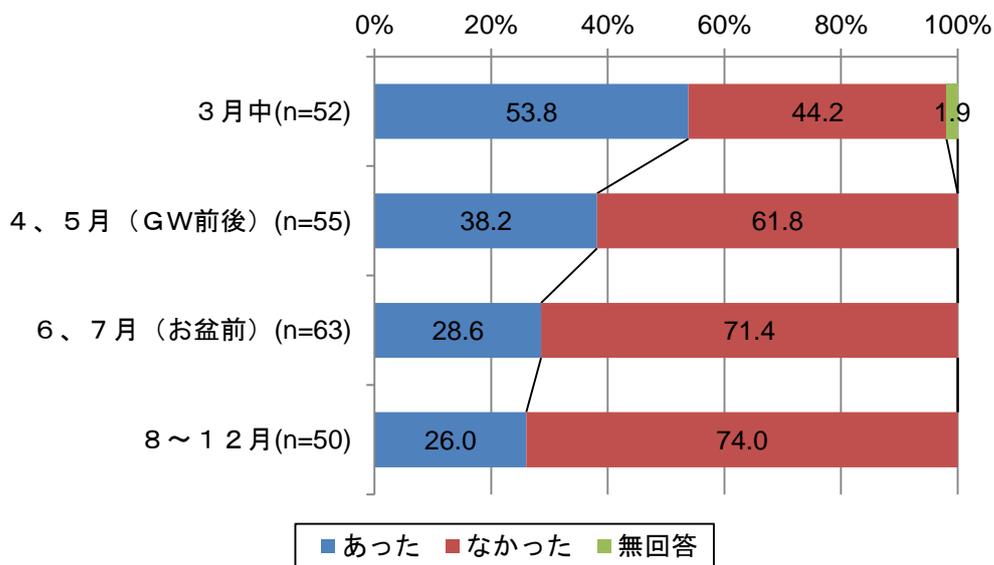
《属性別集計》



問5-1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(5)(3) で選択した建物、構造物の近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことはありますか。【〇は1つ】

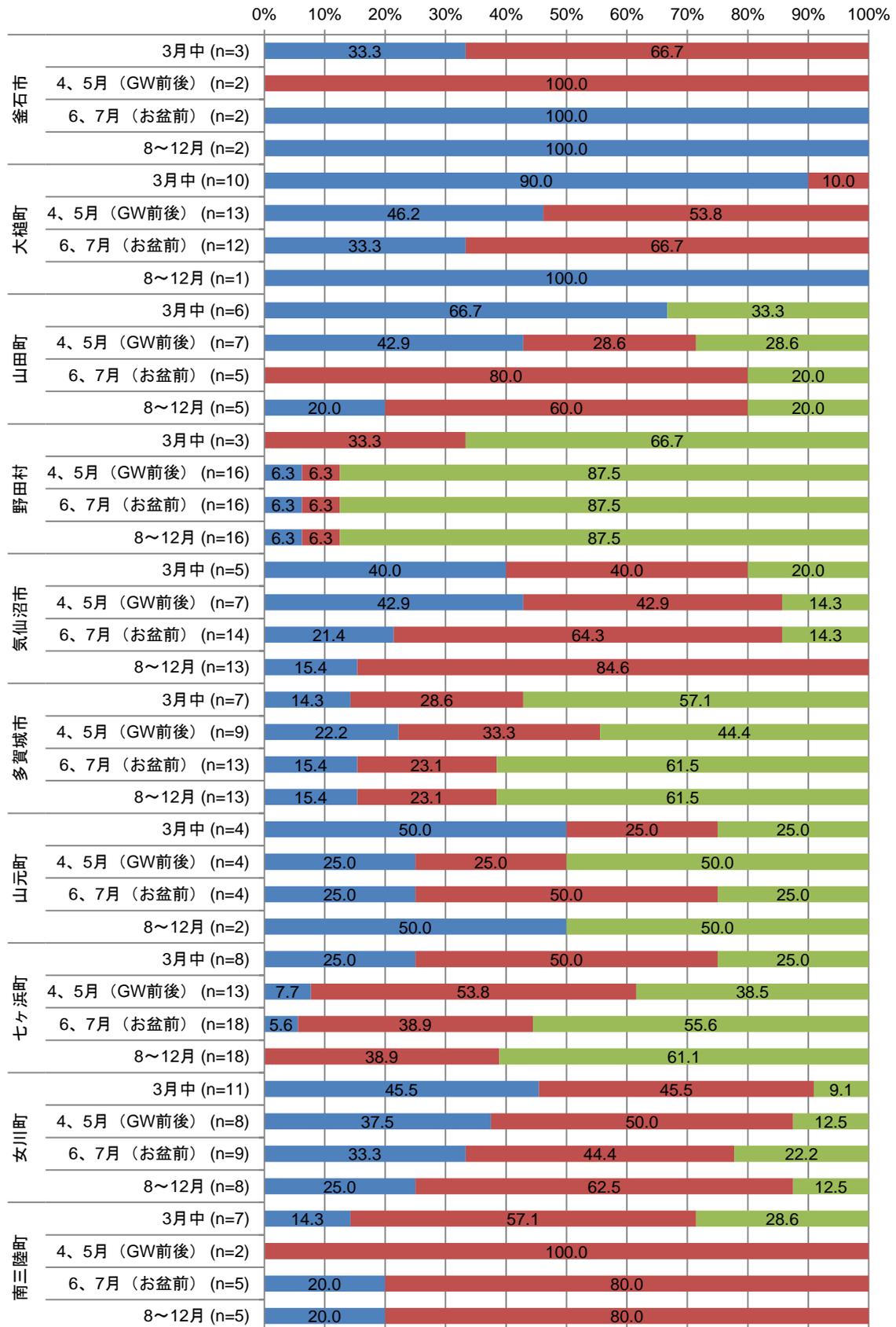
(生活の拠点にしていた場所近くにある建物、構造物等の近くを通ったり、近くで作業をした際に気をつけたこと)



生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）近くにある建物、構造物等の近くを通ったり、近くで作業をした際に気を付けたことについては、3月中は「あった」方の占める割合の方が高いが、4、5月（GW 前後）以降になると「なかった」方の占める割合の方が高い。

具体的な内容としては、いずれの期間においても「マスクの着用」の占める割合が最も高く、半数を超えた。

《属性別集計》



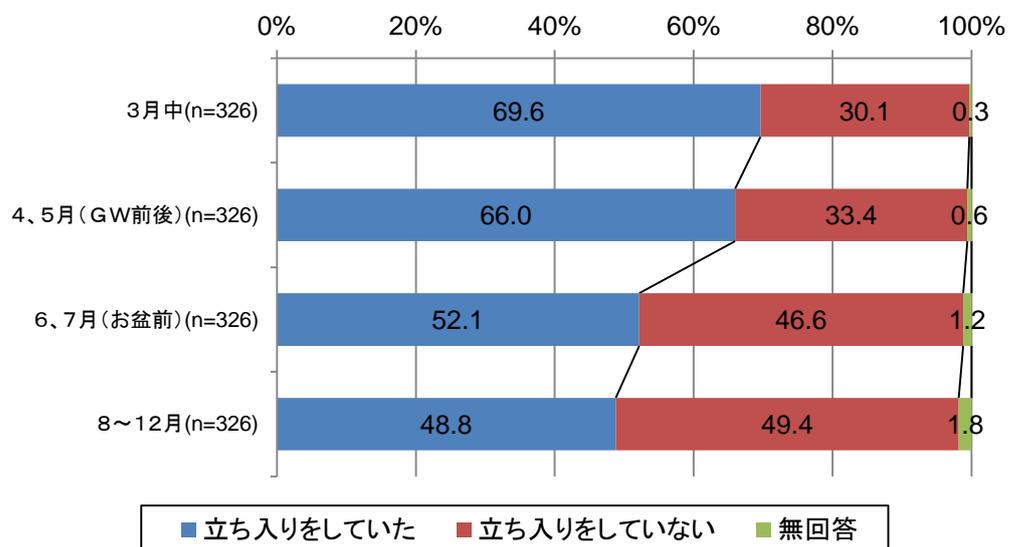
■ 気が付けたことがあった ■ 気が付けたことはなかった ■ 無回答

問5－1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(6) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入りをしていましたか。

【〇は1つ】

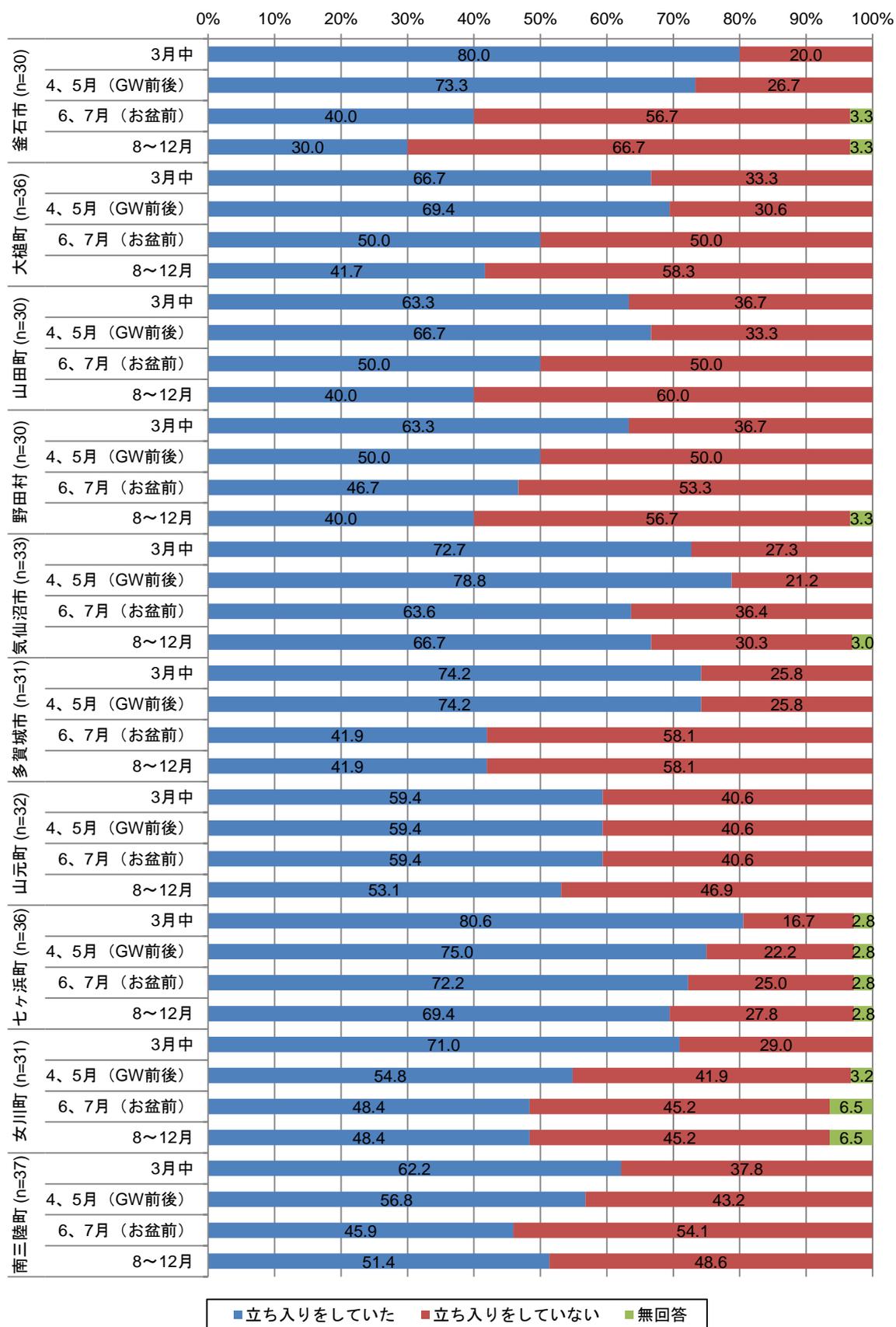
(自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入り状況)



自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」方は3月中が最も多く、7割程度であった。時間が経過するにつれ「立ち入りをしていた」方の占める割合は減少し、8～12月になると5割弱まで減少した。

市町村別にみると、気仙沼市、山元町及び七ヶ浜町ではいずれの期間においても「立ち入りをしていた」方の占める割合が5割を超える。

《属性別集計》

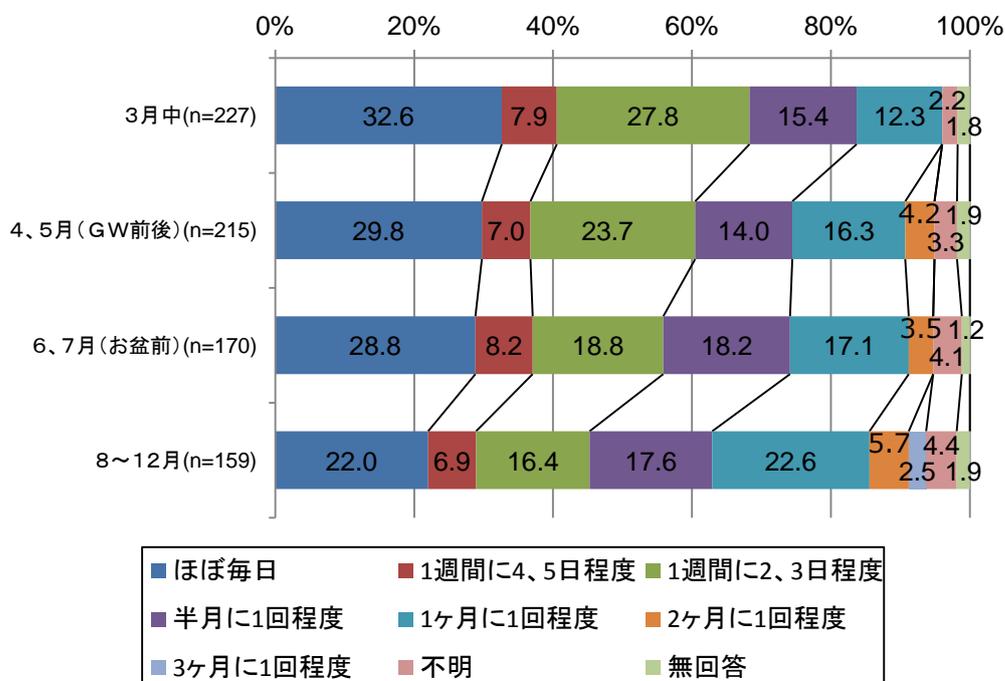


問5-2 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(1) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度をご回答ください。

【〇は1つ】

(立ち入り頻度)

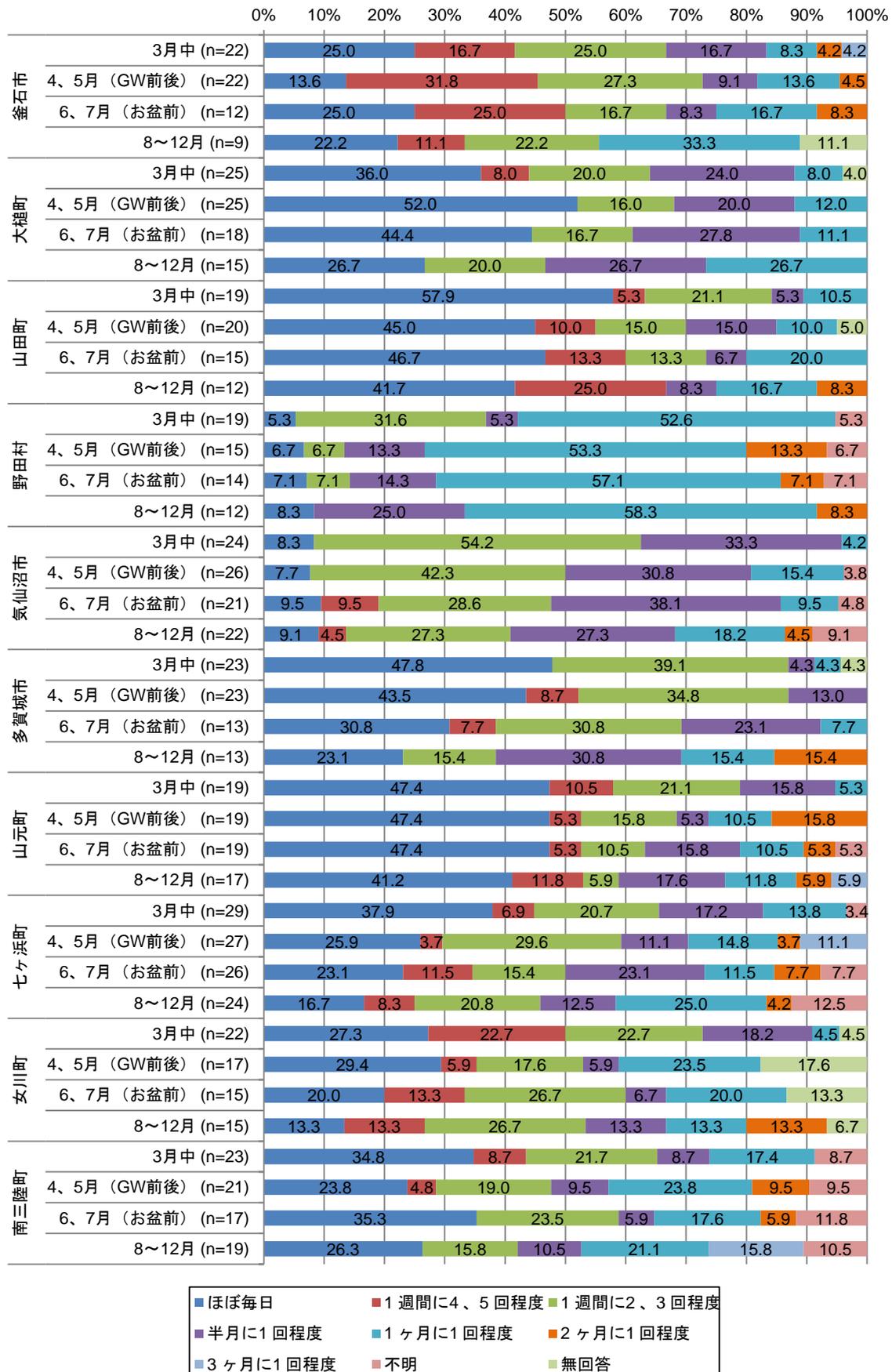


自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りをしていた方を対象に、頻度について確認したところ、3月中は「ほぼ毎日」立ち入った方が74名と最も多く、「1週間に最低1回以上」（「ほぼ毎日」、「1週間に4、5日程度」、「1週間に2、3日程度」の合計）立ち入った方は7割を超える。

時間が経過するにつれて立ち入り頻度は徐々に減少していき、8～12月では、「1ヶ月に1回程度」の方が36名と最も多く、「1週間に最低1回以上」立ち入った方は5割を下回った。

市町村別にみると、野田村では期間を問わず「ほぼ毎日」立ち入った方が1割に満たなかったが、山元町では期間を問わず「ほぼ毎日」立ち入った方が4割を超えており、立ち入り頻度の傾向はそれぞれ異なっている。

《属性別集計》

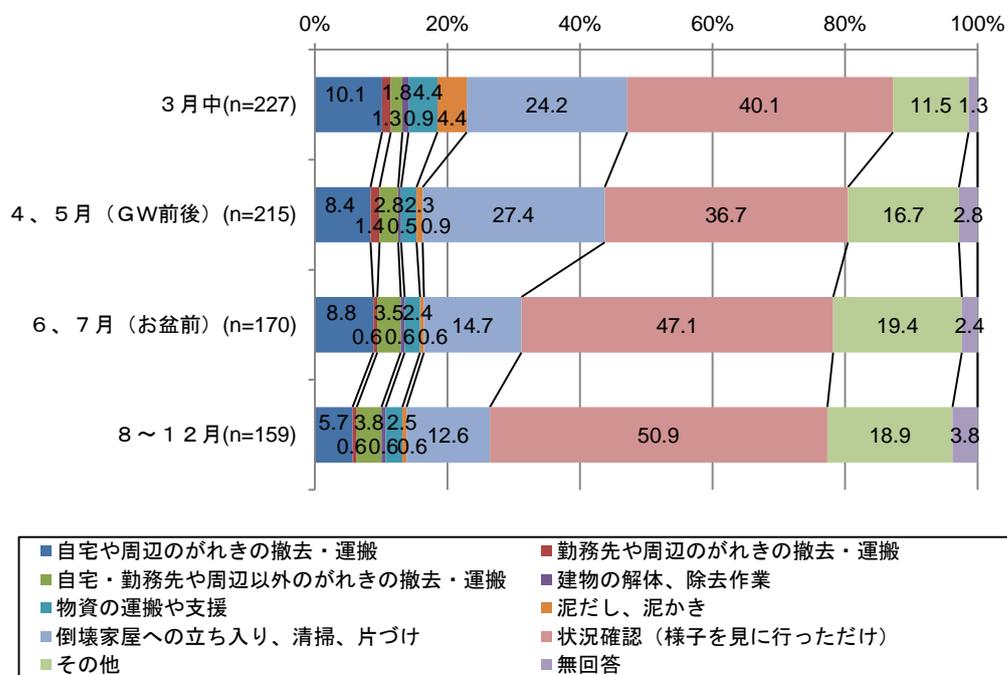


問5－2 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(2) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域で、実施された活動をご回答ください。

【実施した時間が最も長い項目1つに◎、その他実施した項目すべてに○】

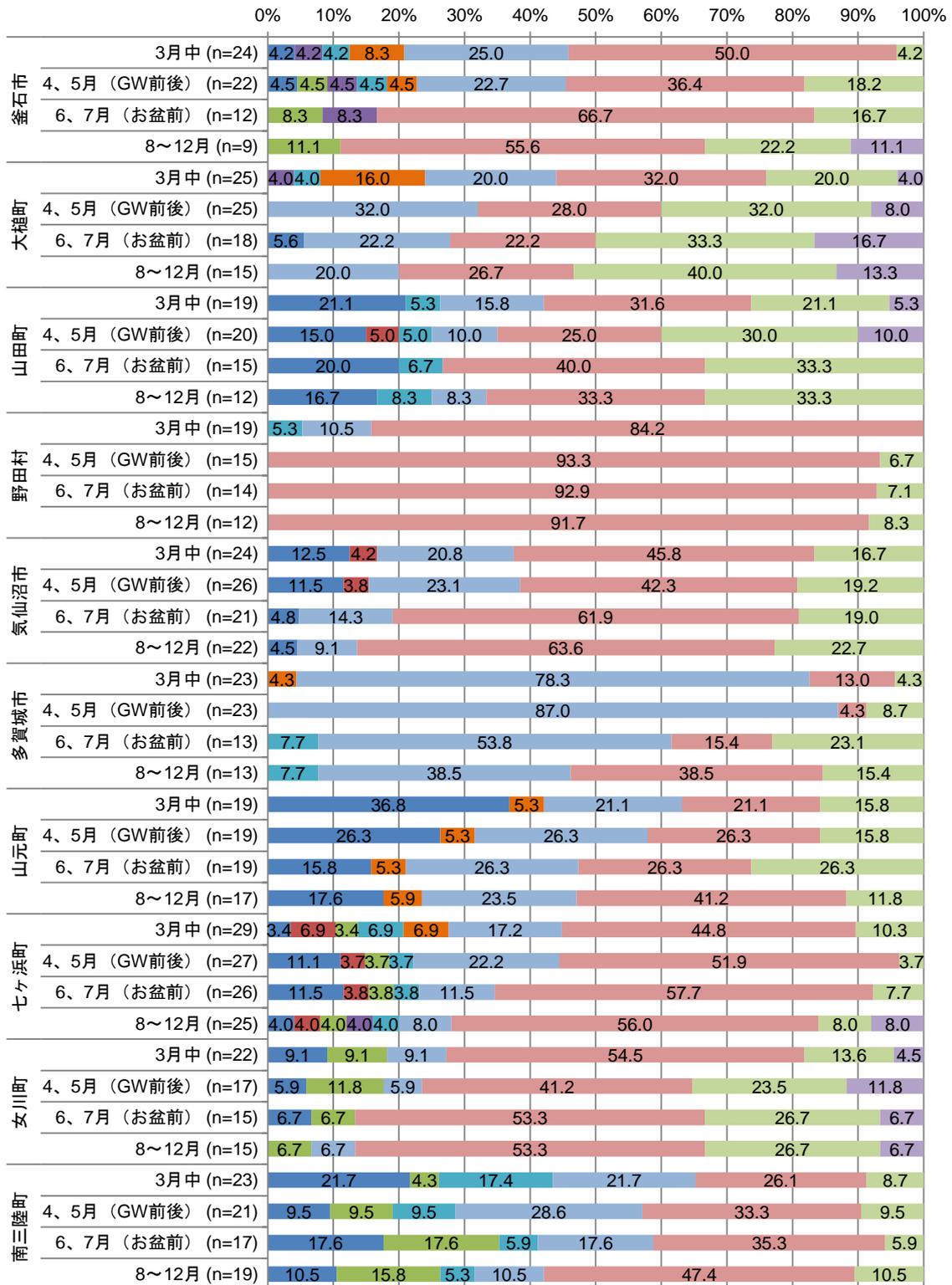
(作業内容<最も従事>)



最も従事した項目は、期間を問わず「状況確認 (様子を見に行っただけ)」が最も多く、「何らかの作業をされた方」(「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬」、「自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬」、「建物の解体、除去作業」、「物資の運搬や支援」、「泥だし、泥かき」及び「倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け」の合計)は、3月中は5割程度であったが、時間が経過するにつれて徐々に減少していき、8～12月になると3割弱であった。

市町村別にみると、野田村では期間を問わず「状況確認 (様子を見に行っただけ)」が最も多く、8割を超える。

《属性別集計》



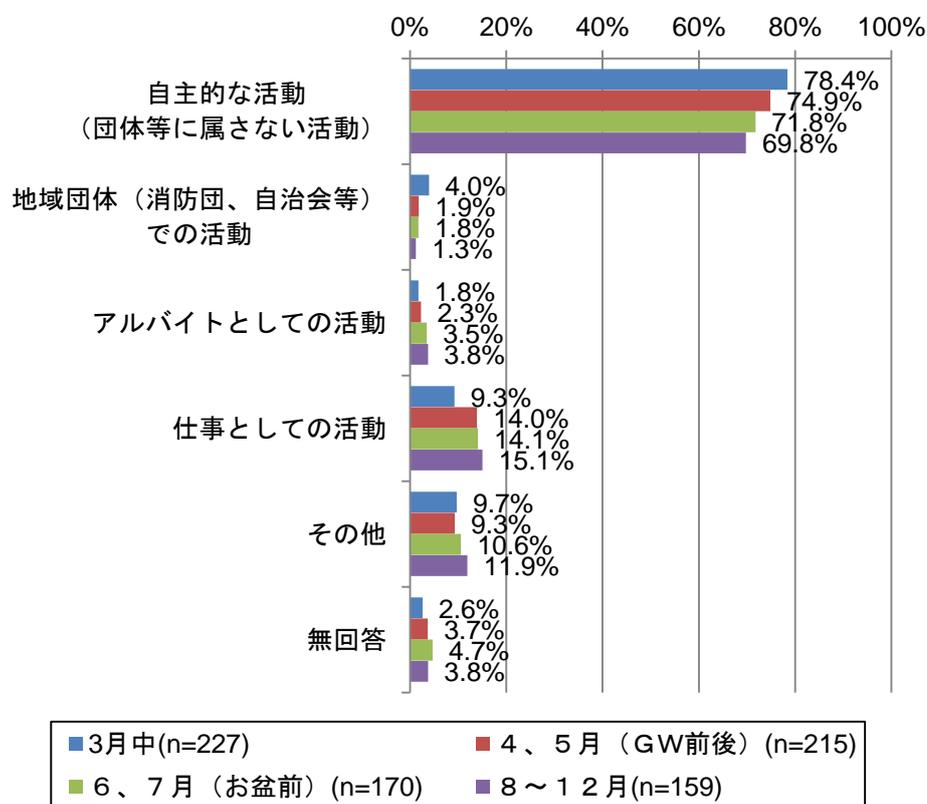
- 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬
- 勤務先や周辺のがれき撤去・運搬
- 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬
- 建物の解体、除去作業
- 物資の運搬や支援
- 泥だし、泥かき
- 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け
- 状況確認（様子を見に行っただけ）
- その他
- 無回答

問5－2 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(3) (2) の項目について、活動形態をご回答ください。

【〇は該当するものいくつかでも】

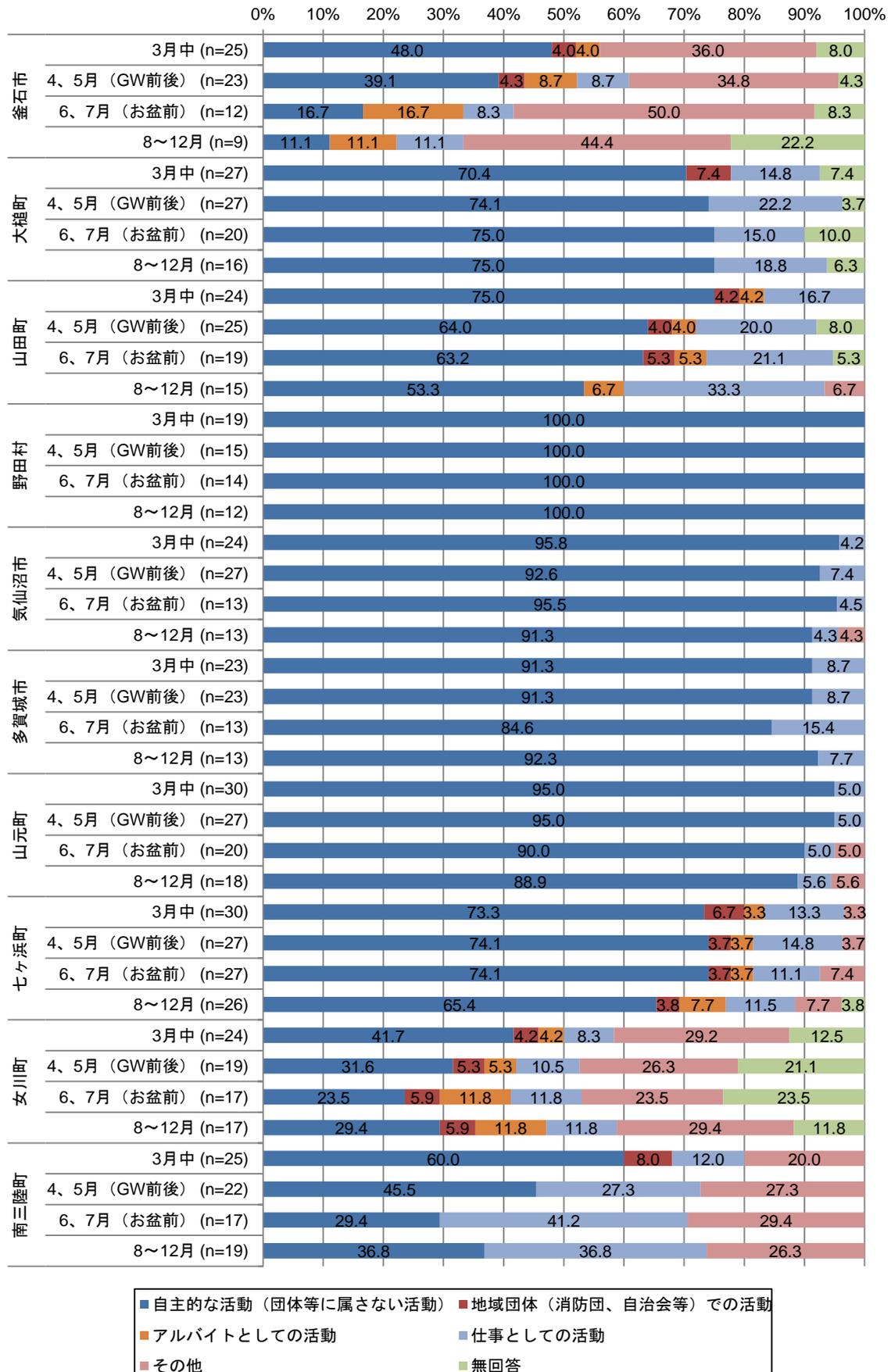
(活動形態)



活動形態は期間を問わず「自主的な活動 (団体等に属さない活動)」が最も多い。時間が経過するにつれ「仕事としての活動」が増え、8～12月には1割を超える。

市町村別にみると、気仙沼市、多賀城市及び山元町では期間を問わず「自主的な活動 (団体等に属さない活動)」が9割を超え、野田村では活動された方はいずれの期間も「自主的な活動 (団体等に属さない活動)」であった。

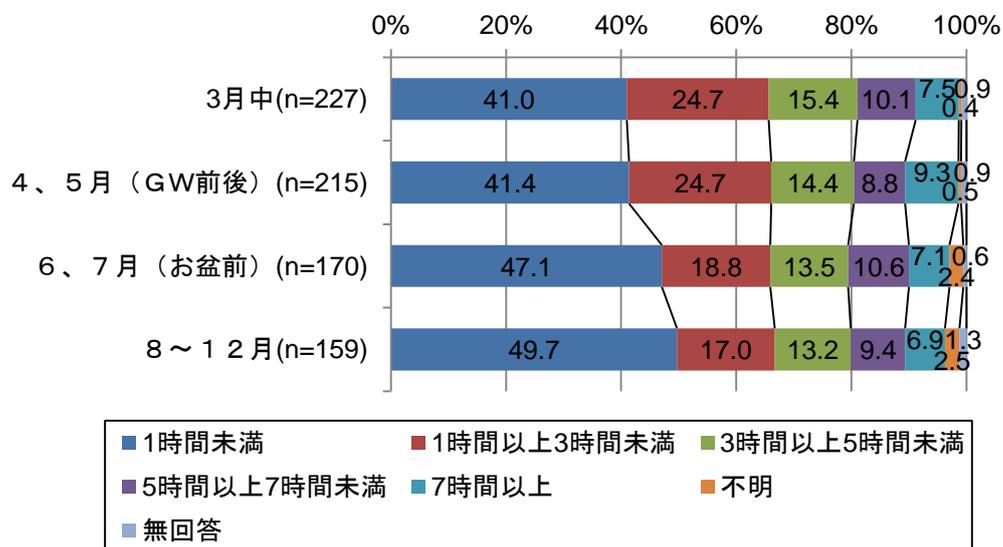
《属性別集計》



問5-2 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(4) 1回あたりの平均活動時間をご回答ください。【〇は1つ】

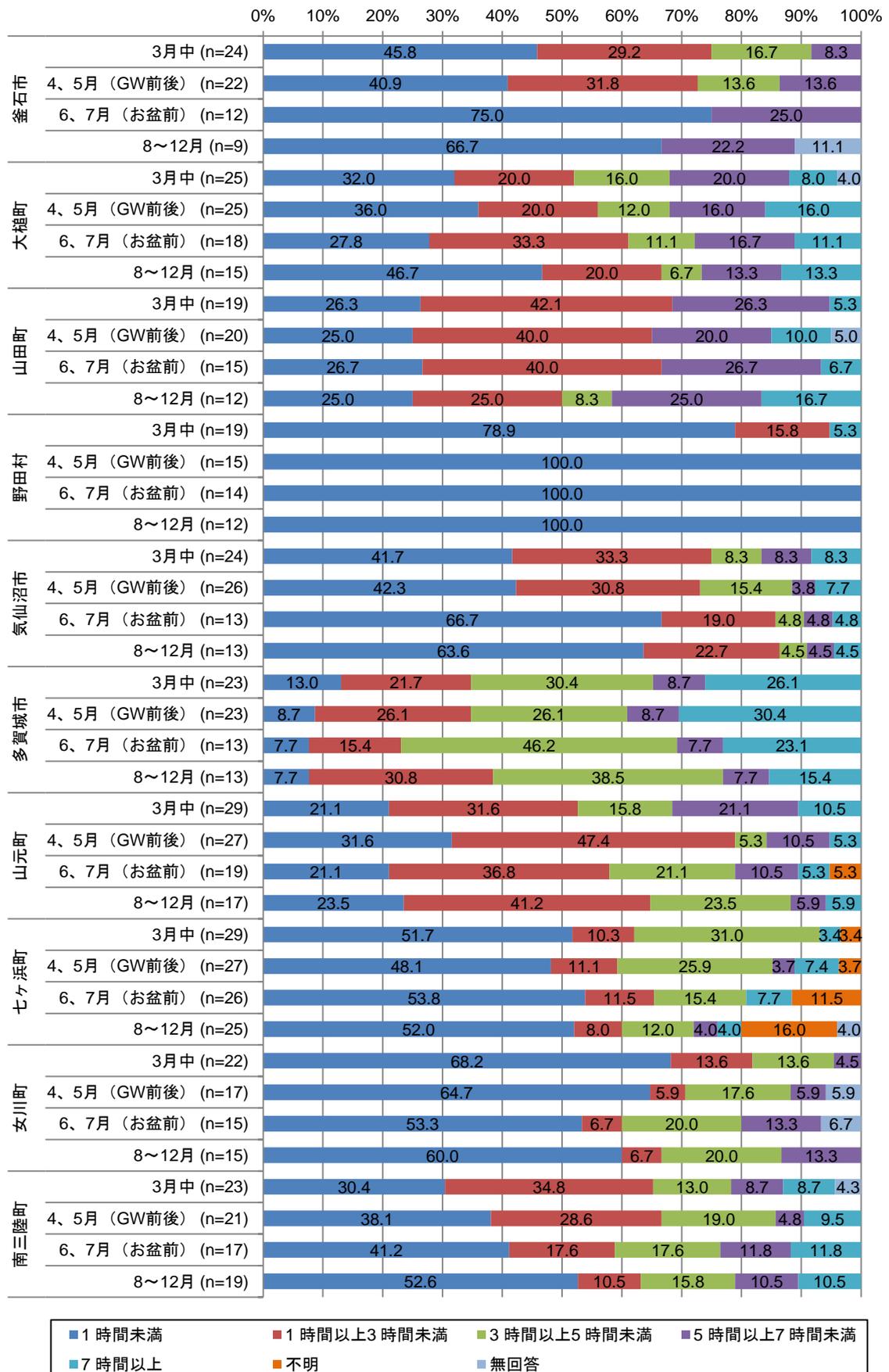
(平均活動時間)



平均活動時間は期間を問わず「1 時間未満」が最も多く、時間の経過ともにその割合は高くなる。

市町村別にみると、多賀城市では期間を問わず平均活動時間が「1 時間以上」を占める割合が高い。

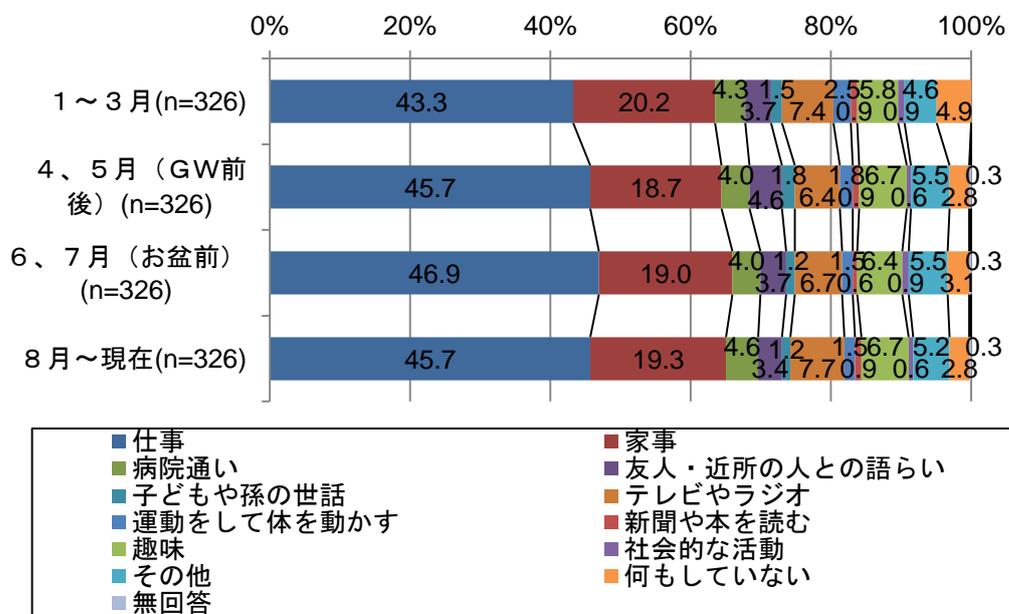
《属性別集計》



### 2.3.2 平成24年の状況

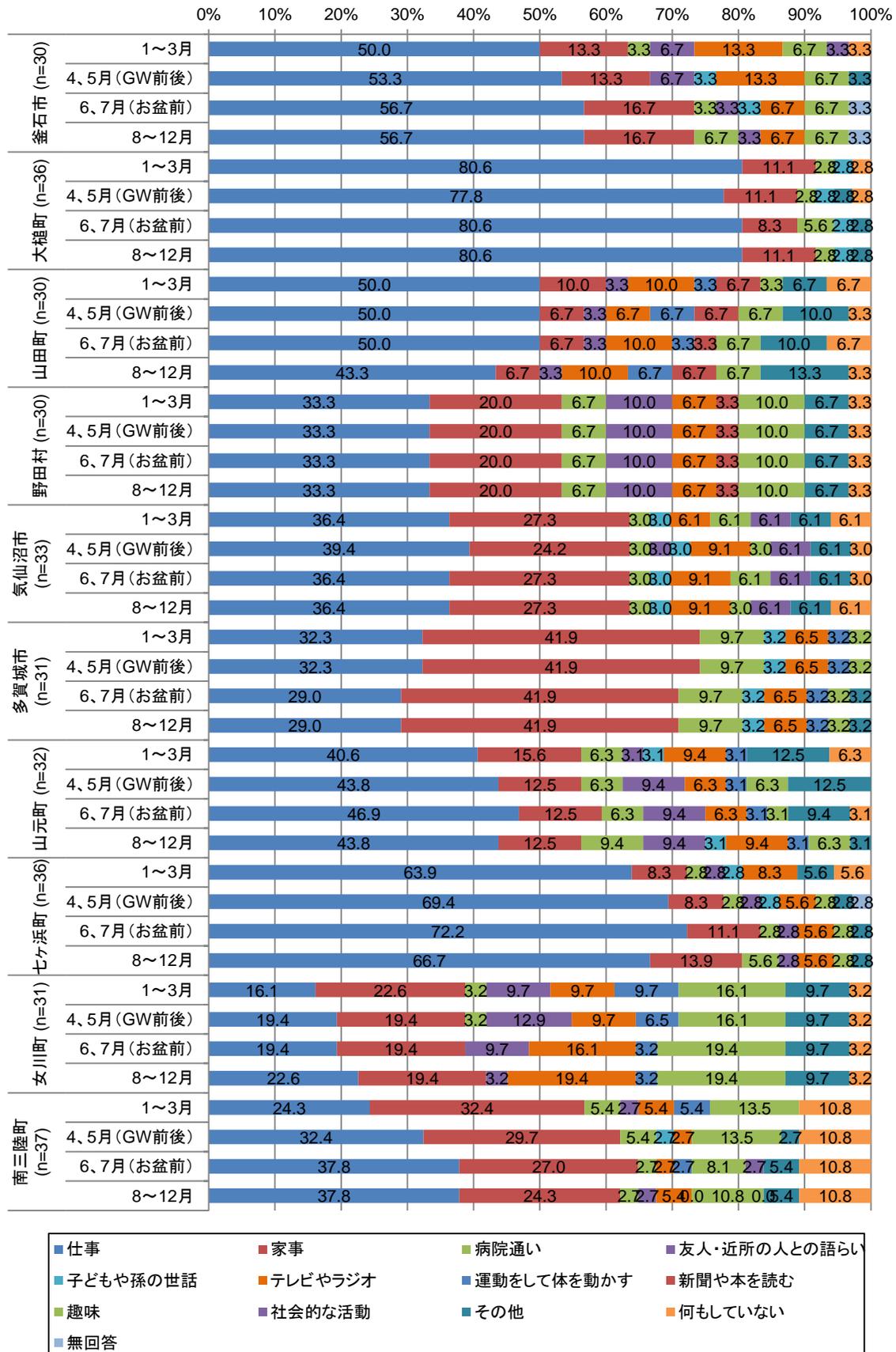
問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(1) 毎日の生活で多く時間をとっていたことは何ですか。【〇は1つ】  
(多くの時間をとっていたこと)



多くの時間をとっていたことは期間を問わず「仕事」が最も多く、4割程度であった。

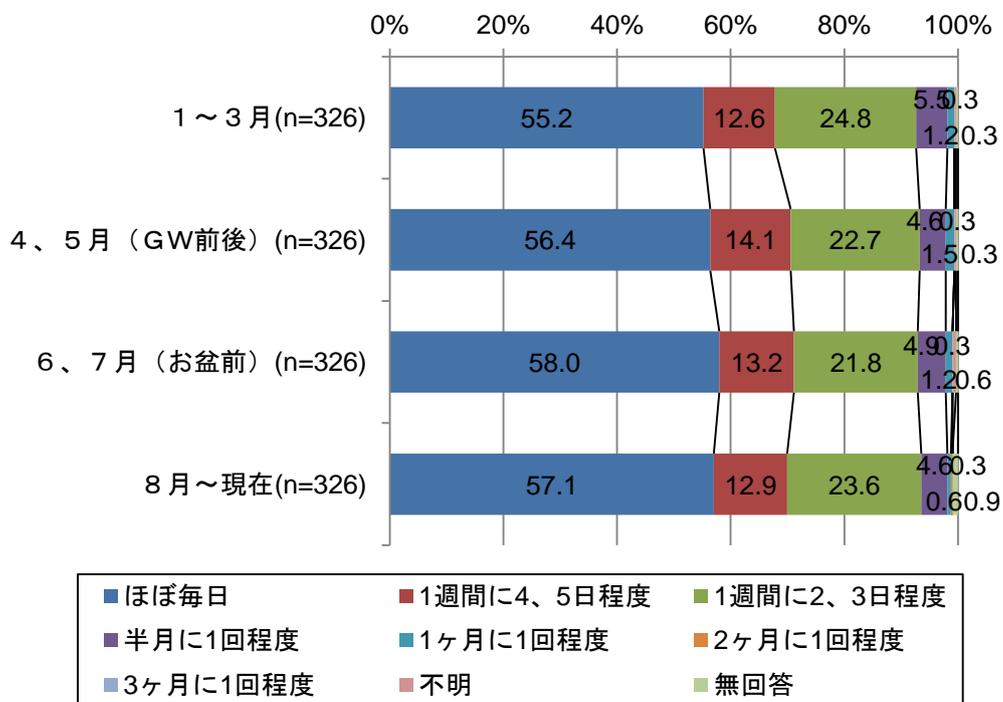
《属性別集計》



問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(2) 外出の頻度についてご回答ください。【〇は1つ】

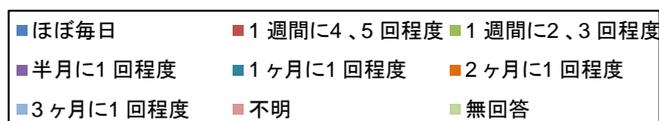
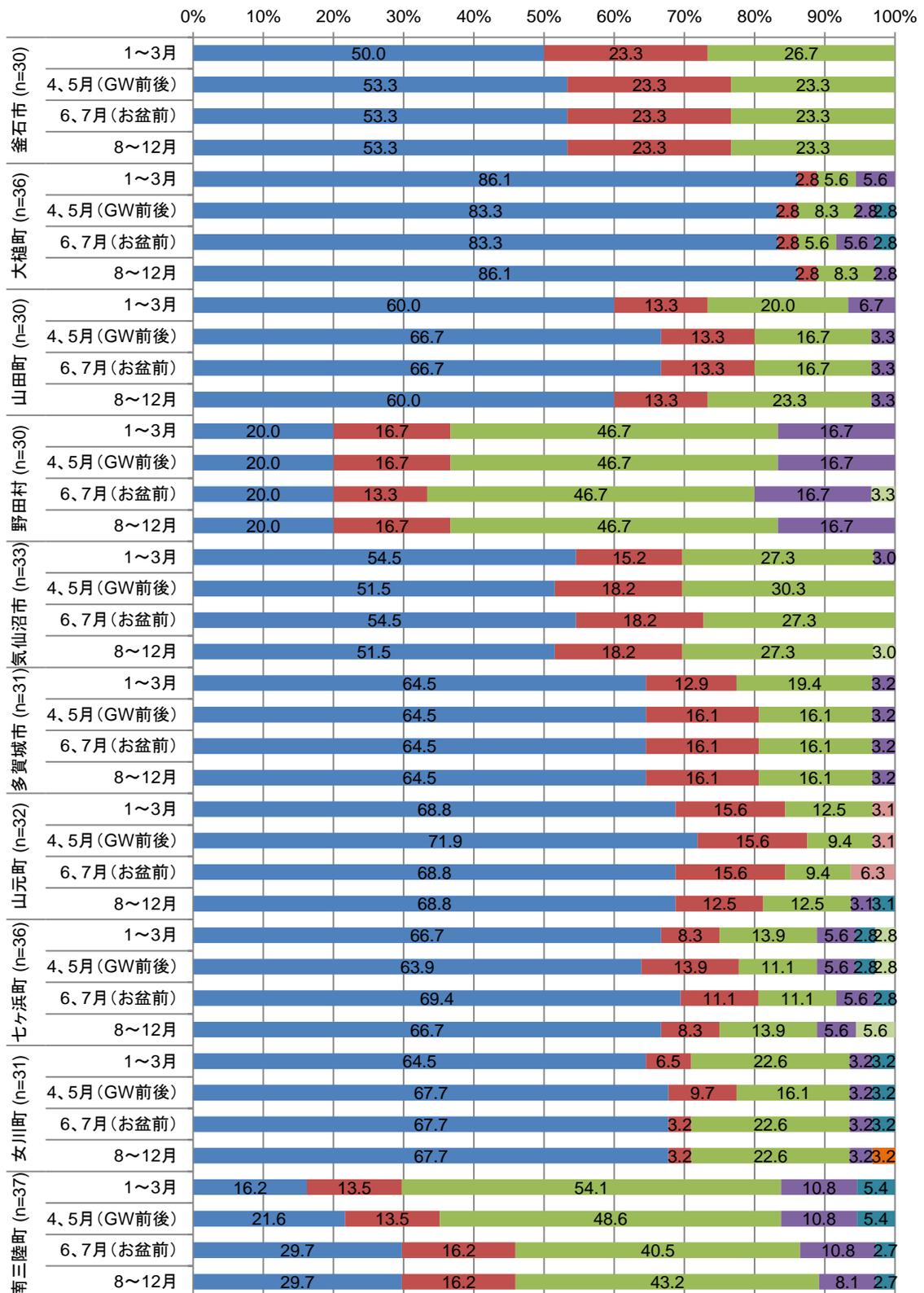
(外出頻度)



外出頻度は期間を問わず「ほぼ毎日」が最も多く、5割を超えた。

市町村別にみると、大槌町では期間を問わず「ほぼ毎日」が最も多く、8割を超えた。

《属性別集計》



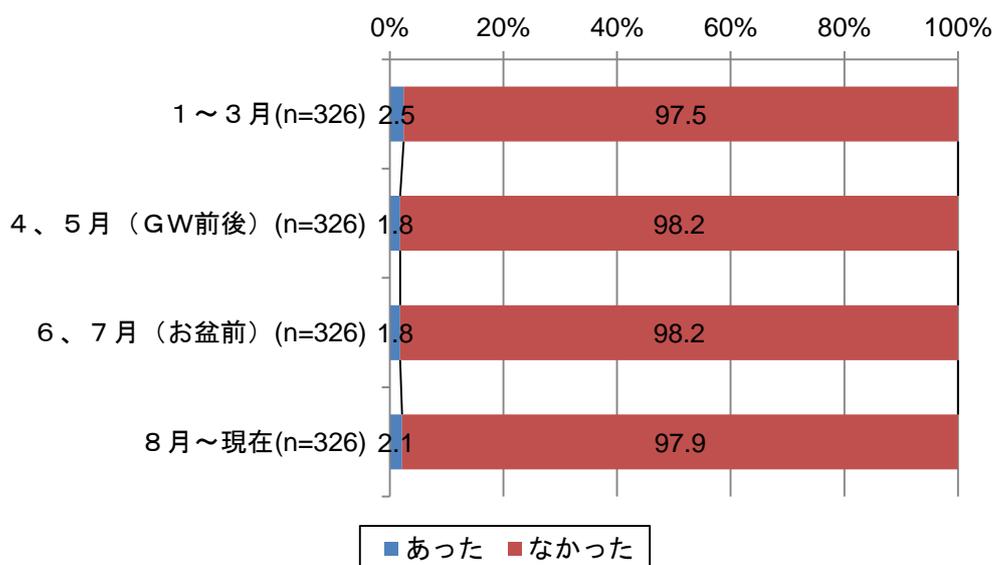
問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(3) 次のような作業現場の近くを通ったり、近くで作業をしたことはありますか。

【近くで作業をした項目すべてに◎、近くを通った項目すべてに○】

\* 選択肢：被災現場での建物の解体、除去、一次仮置場への災害廃棄物の搬入、一次仮置場での災害廃棄物の仮置き、一次仮置場での災害廃棄物の粗選別、二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別、二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬

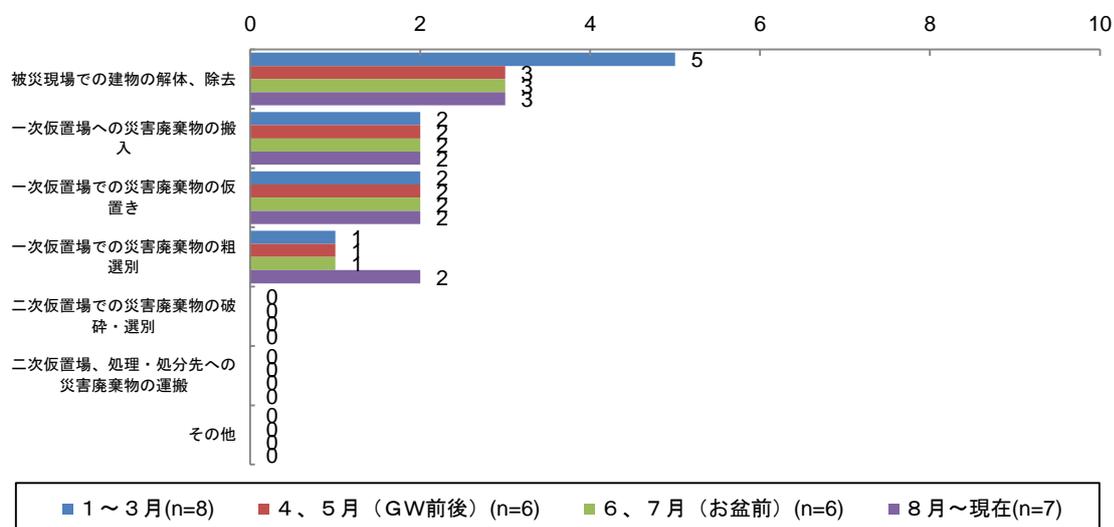
(作業の有無)



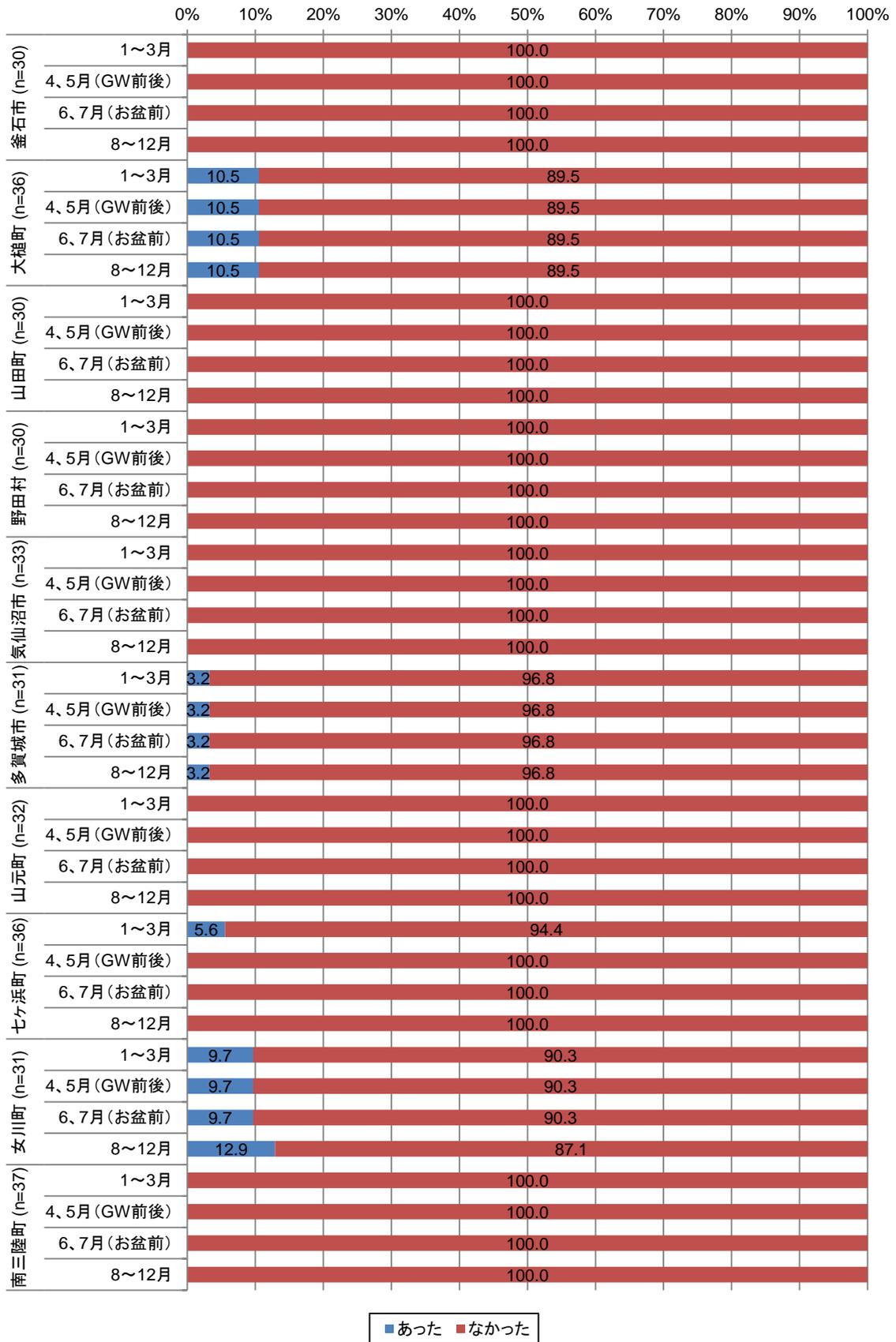
近くで作業をされたことが「あった」方は、期間を問わず10名弱であった。

具体的な作業内容としては、期間を問わず「被災現場での建物の解体、除去」近くで作業をされた方の占める割合が最も高く、7割を超える。

市町村別にみると、大槌町、多賀城市、七ヶ浜町及び女川町では、近くで作業をされたことが「あった」方が確認された。



《属性別集計》



■あった ■なかった

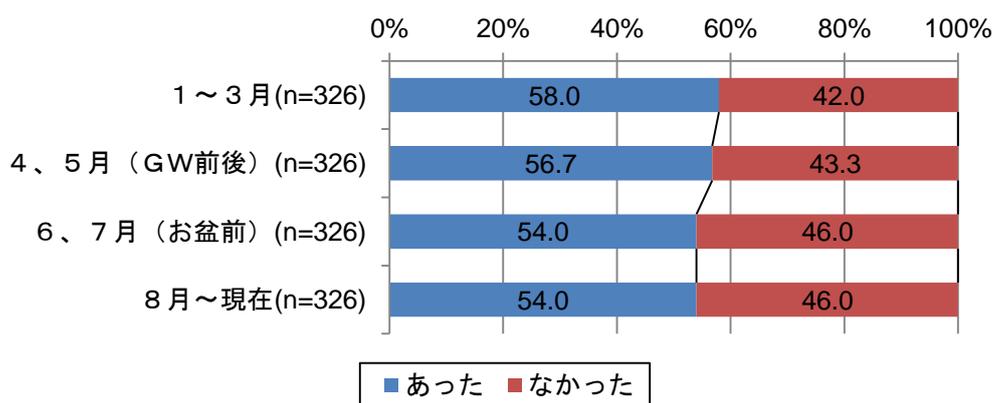
問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(3) 次のような作業現場の近くを通ったり、近くで作業をしたことはありますか。

【近くで作業をした項目すべてに◎、近くを通った項目すべてに○】

\* 選択肢：被災現場での建物の解体、除去、一次仮置場への災害廃棄物の搬入、一次仮置場での災害廃棄物の仮置き、一次仮置場での災害廃棄物の粗選別、二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別、二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬

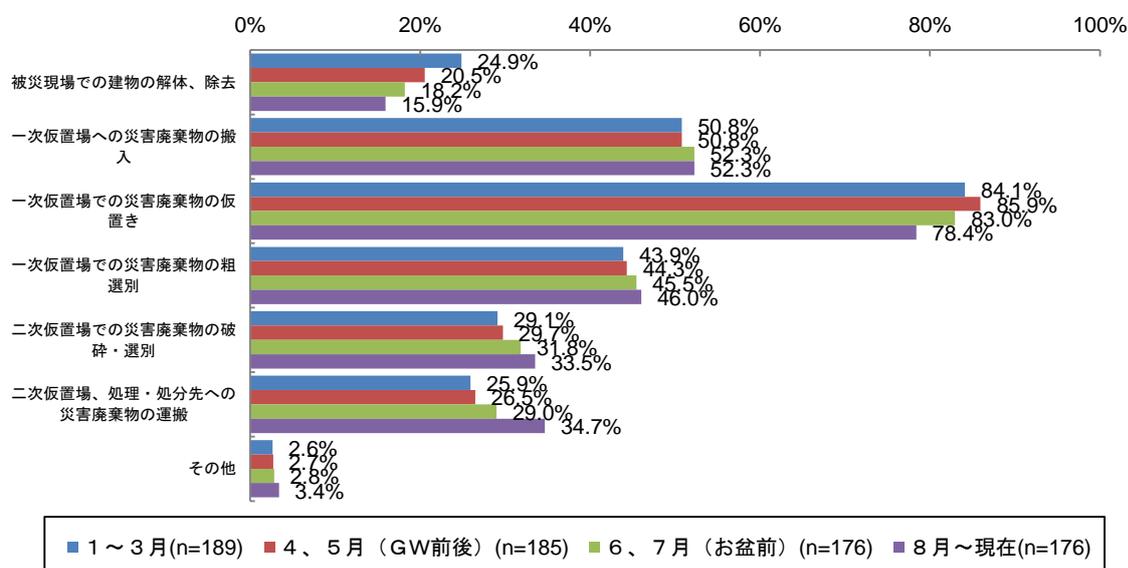
(通過有無)



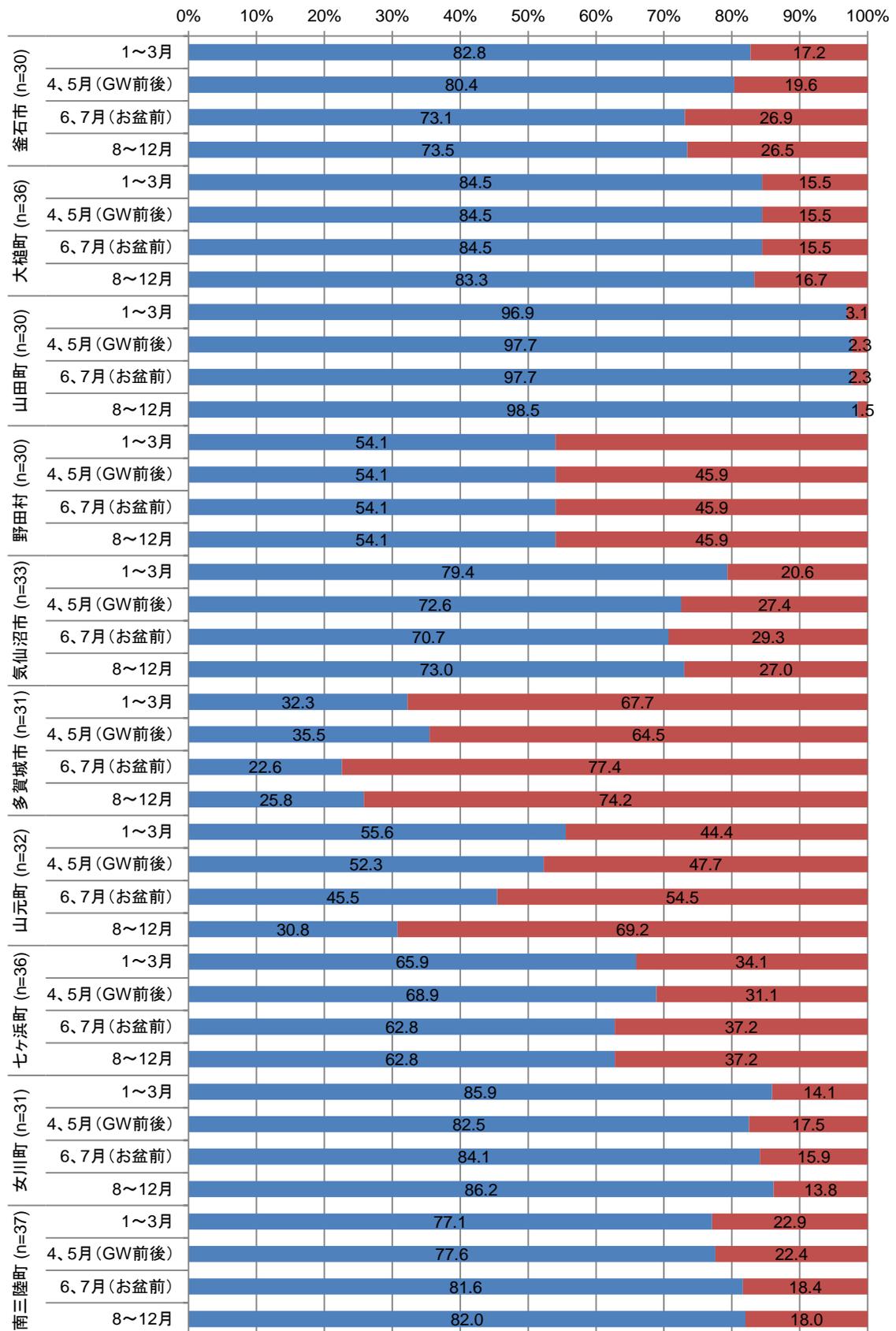
近くを通ったことが「あった」方は、期間を問わず5割を超えた。

具体的な内容としては、期間を問わず「一次仮置場での災害廃棄物の仮置き」現場近くを通った方の占める割合が最も高い。また、時間が経過するにつれて「被災現場での建物の解体、除去」の占める割合は減少し、二次仮置場における作業現場（「二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別」及び「二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬」）近くを通った方の占める割合が増加している。

市町村別にみると、多賀城市及び山元町を除く全ての市町村で、近くを通ったことが「あった」方は期間を問わず5割を超えた。



《属性別集計》

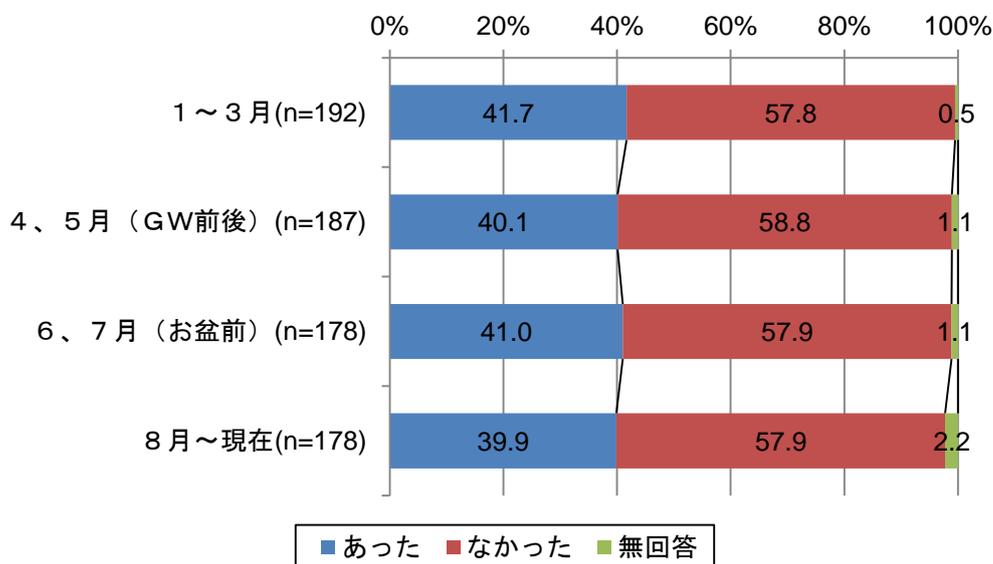


■あった ■なかった

問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(4) (3) で選択した作業現場の近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことはありますか。【〇は1つ】

(近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたこと)

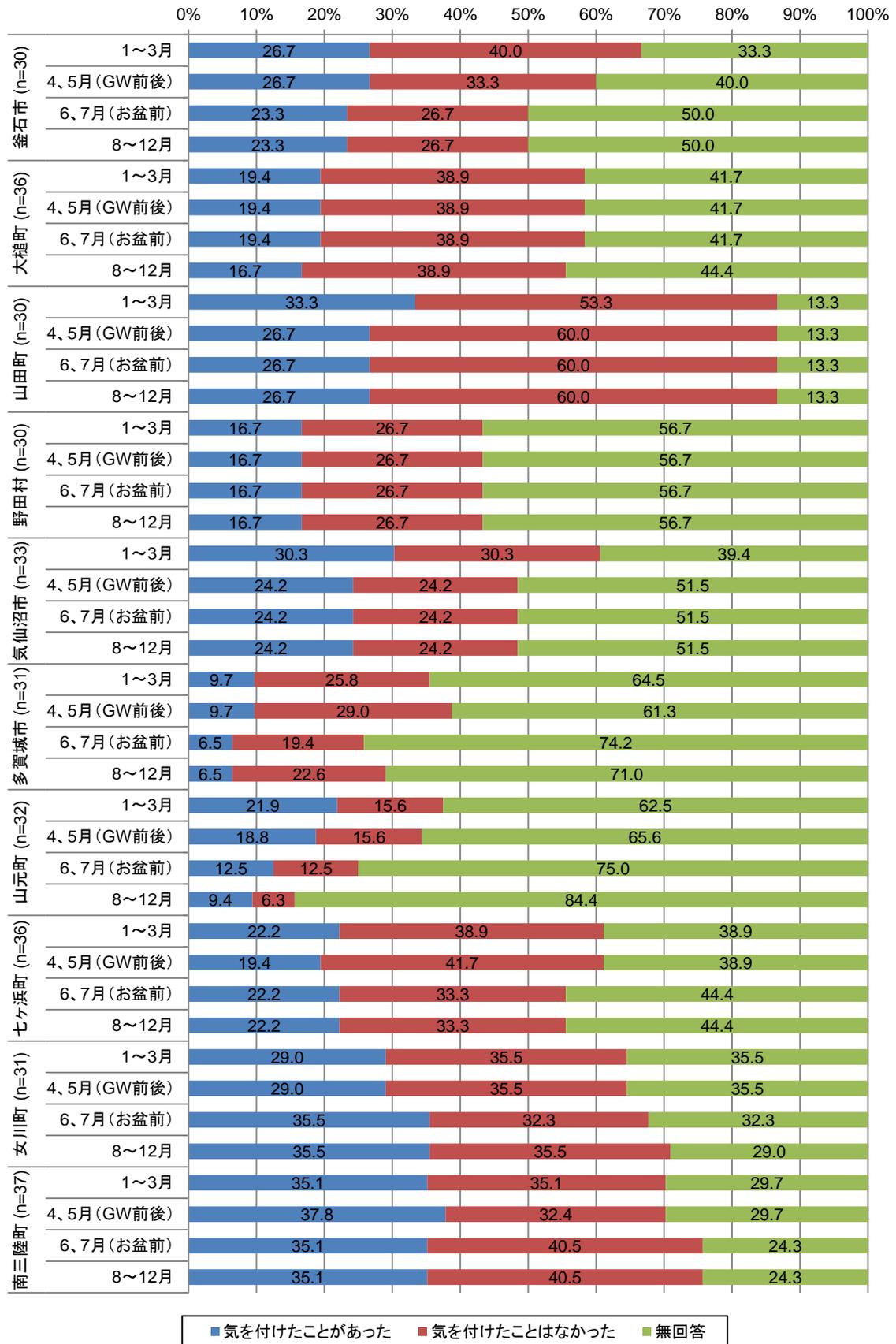


近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことが「あった」方は、期間を問わず4割程度であった。

具体的な内容としては、「マスクの着用」が最も多く、次いで「車の窓を開けない」が続く。

市町村別にみると、山田町では、近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことが「なかった」方は、期間を問わず5割を超えた。

《属性別集計》



### 2.3.3 まとめ

被災後の石綿ばく露に関連する状況を、被災直後から年末までと年明けから現在までの2区分に分けて整理した。

被災直後に生活の拠点としていた場所は、3月中は「避難所」が最も多く、次いで「知人・親戚宅」となり、期間が経過するにつれその占める割合は減少していき、6月以降では「仮設住宅」が最も多くなった。また、生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の被害状況としては、期間を問わず「被害はなかった」の占める割合が最も高く、8割前後であった。

また、生活の拠点にしていた場所（滞在した時間が最も長い地点）の近くに一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した建物、構造物等が「あった」と認識されている方は、2割程度であった。具体的な施設としては、いずれの期間においても「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」が最も多く、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した建物、構造物等の近くを通った、又は近くで作業をした頻度は、3月中は「ほぼ毎日」の占める割合が最も高く、5割を超えた。

自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」方は、3月中が最も多く7割程度で、そのうち「ほぼ毎日」立ち入った方が74名（32.6%）で最も多く、「1週間に最低1回以上」（「ほぼ毎日」、「1週間に4、5日程度」、「1週間に2、3日程度」の合計）立ち入った方は7割を超えた。また、「立ち入りをしていた」際に最も従事した項目は、期間を問わず「状況確認（様子を見に行っただけ）」が最も多く4割前後であった。

年明けから現在（11月～12月）までの生活状況では、最も多くの時間をとっていたことが期間を問わず「仕事」が最も多く、外出の頻度においても「ほぼ毎日」が期間を問わず5割を超えた。

被災現場での解体作業場や災害廃棄物仮置場等、作業現場の近くで作業をされたことがあった方は、期間を問わず10名弱であった。また、作業現場の近くを通ったことがあった方は、期間を問わず5割を超えた。近くで作業された方の具体的な作業内容としては、期間を問わず「被災現場での建物の解体、除去」近くで作業をされた方の占める割合が最も高く、7割を超える。市町村別にみると、大槌町及び女川町では、期間を問わず「被災現場での建物の解体、除去」近くで作業をされた方の占める割合が高い。

また、被災現場での解体作業場や災害廃棄物仮置場等、作業現場の近くで作業をしたり、通ったりした際に気を付けたことが「あった」方は、期間を問わず4割程度であった。具体的な内容としては、「マスクの着用」が最も多く、次いで「車の窓を開けない」が続く。

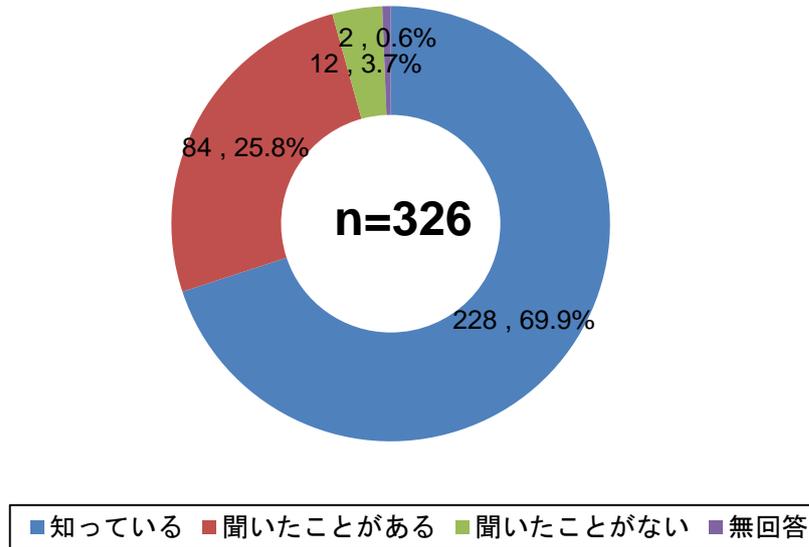
## 2.4 石綿（アスベスト）に関する意識

### 2.4.1 被災前の石綿（アスベスト）に関する情報入手状況

問6 「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして知っていますか。

【〇は1つ】

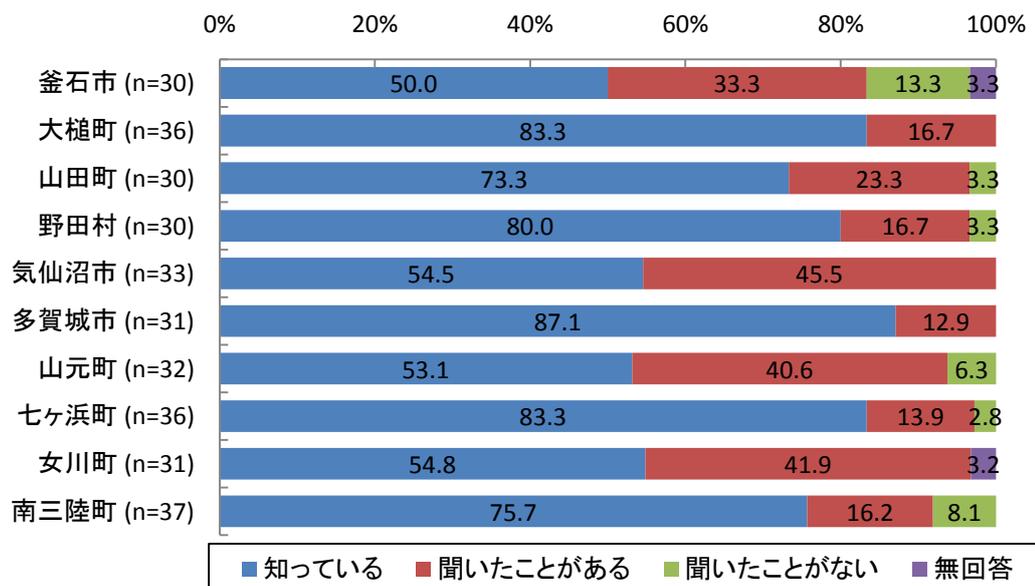
（石綿（アスベスト）の認識度）



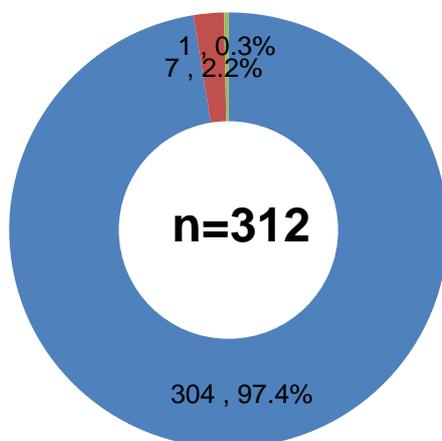
全体としては9割以上が「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答している。

市町村別にみると、大槌町、野田村、多賀城市及び七ヶ浜町では「知っている」の占める割合が8割を超える。

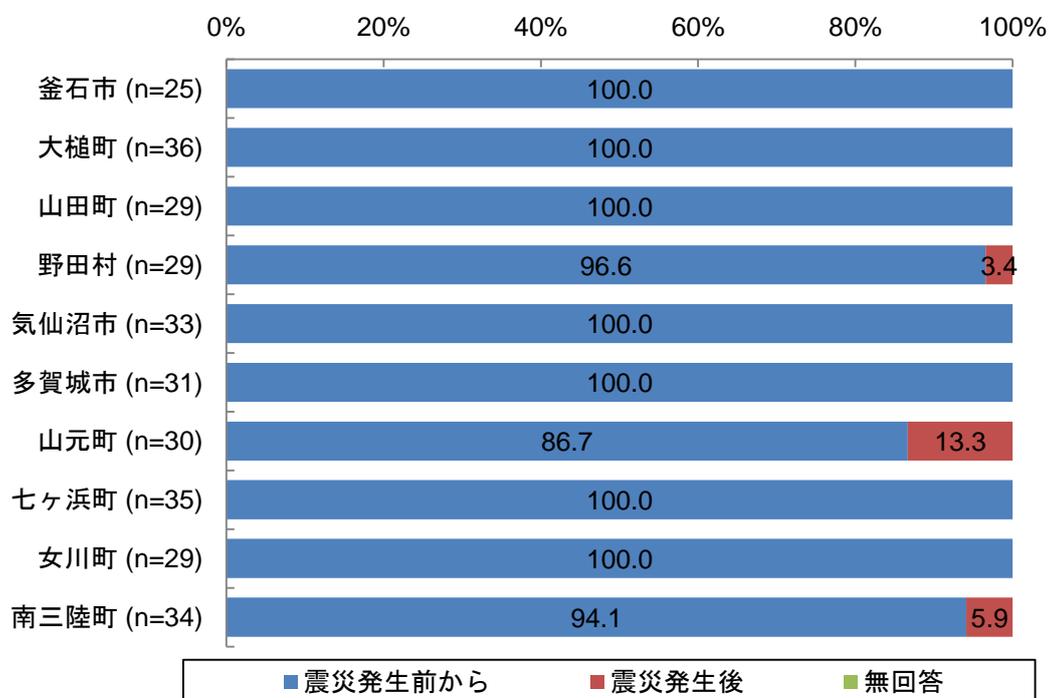
《属性別集計》



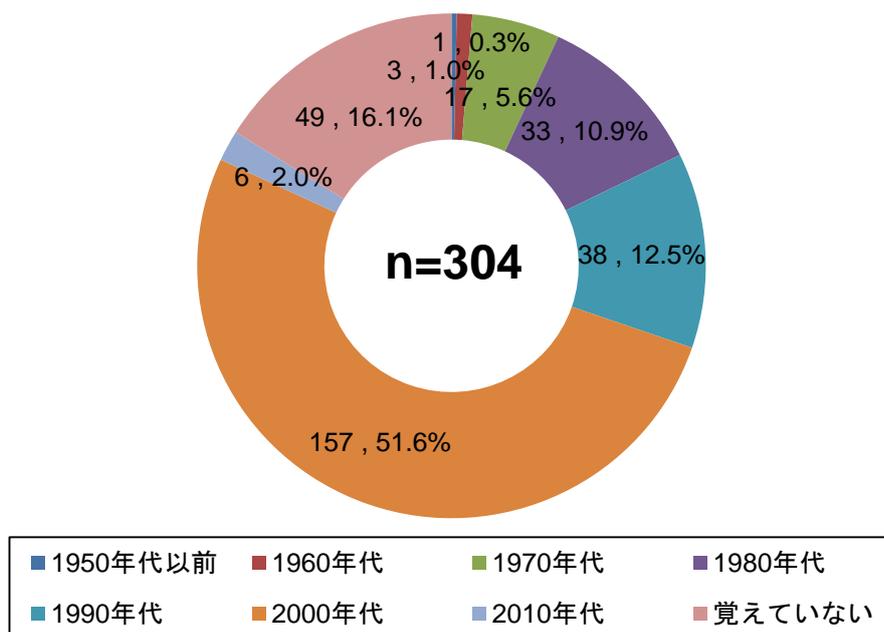
問7 「アスベスト」または「石綿」のことを知ったのはいつ頃ですか。【〇は1つ】  
 (認識した時期)



「アスベスト」または「石綿」のことを「震災発生前から」知っていた方が9割を超えた。市町村別にみると、山元町では「震災発生後」に知った方が1割を超える(4名、13.3%)。<<属性別集計>>



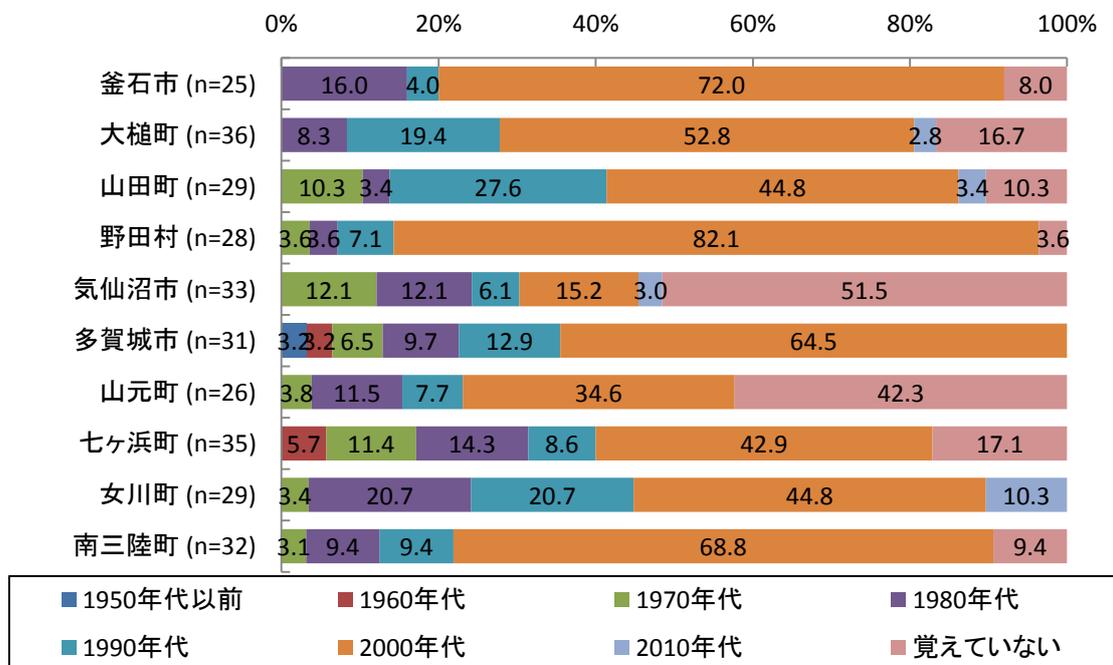
(認識した時期：西暦換算)



石綿（アスベスト）を知ったのは 2000 年代が 157 名（51.6%）と最も多く、次いで「覚えていない」（49 名、16.1%）、「1990 年代」（38 名、12.5%）と続く。

市町村別にみると、野田村では「2000 年代」の占める割合が 8 割を超える。

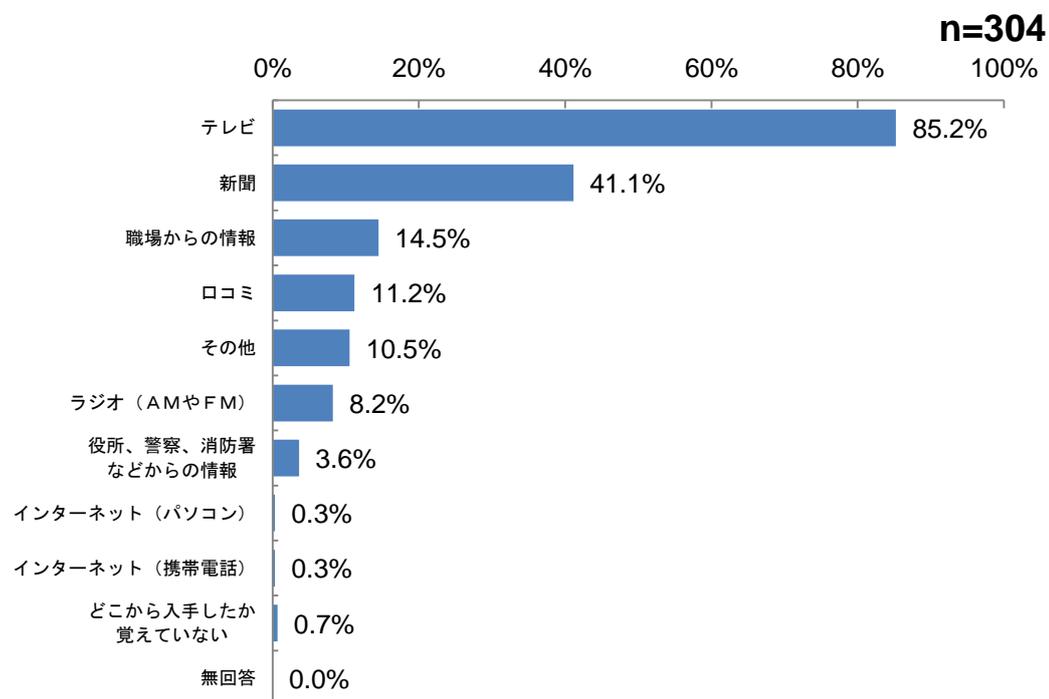
《属性別集計》



問8 「アスベスト」または「石綿」に関する情報を入手した先はどちらでしたか。

【〇は該当するものいくつでも】

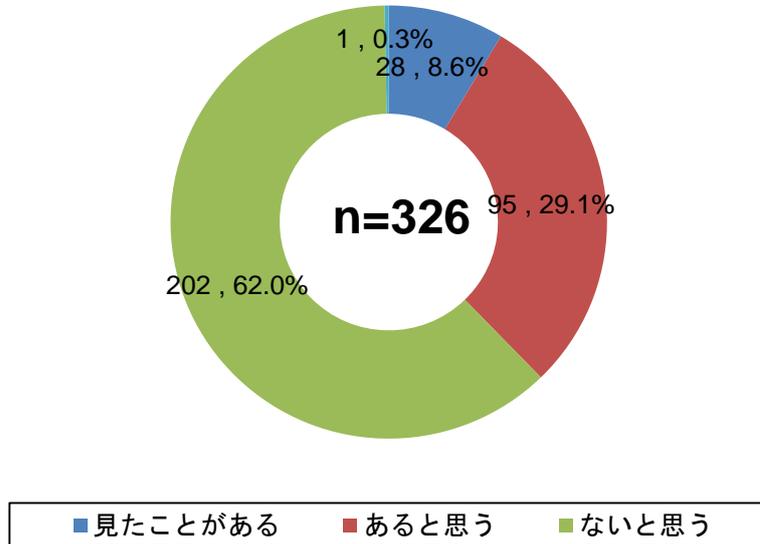
(情報の入手元)



「アスベスト」または「石綿」に関する情報の入手先としては「テレビ」が 259 名 (85.2%) と最も多く、次いで「新聞」(125 名、41.1%)、「職場からの情報」(44 名、14.5%) と続く。

### 2.4.2 アスベストに関する意識

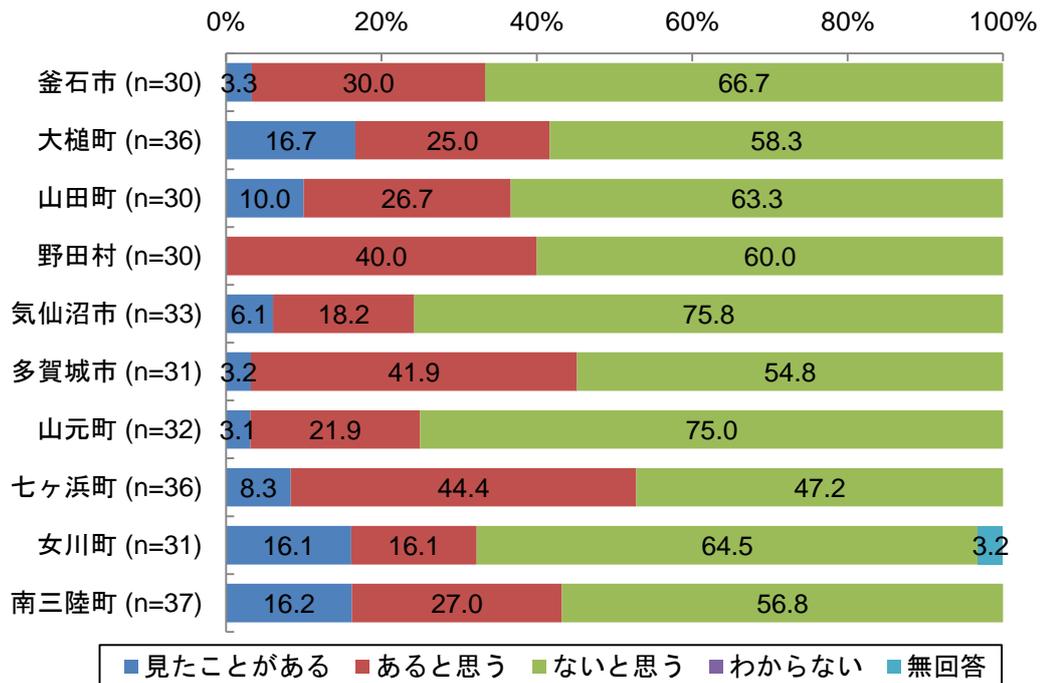
問9 あなたの身の回りに「アスベスト」または「石綿」があるでしょうか。【〇は1つ】  
 (身の回りのアスベストの有無)



身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」と認識されている方は123名(37.7%)であった。

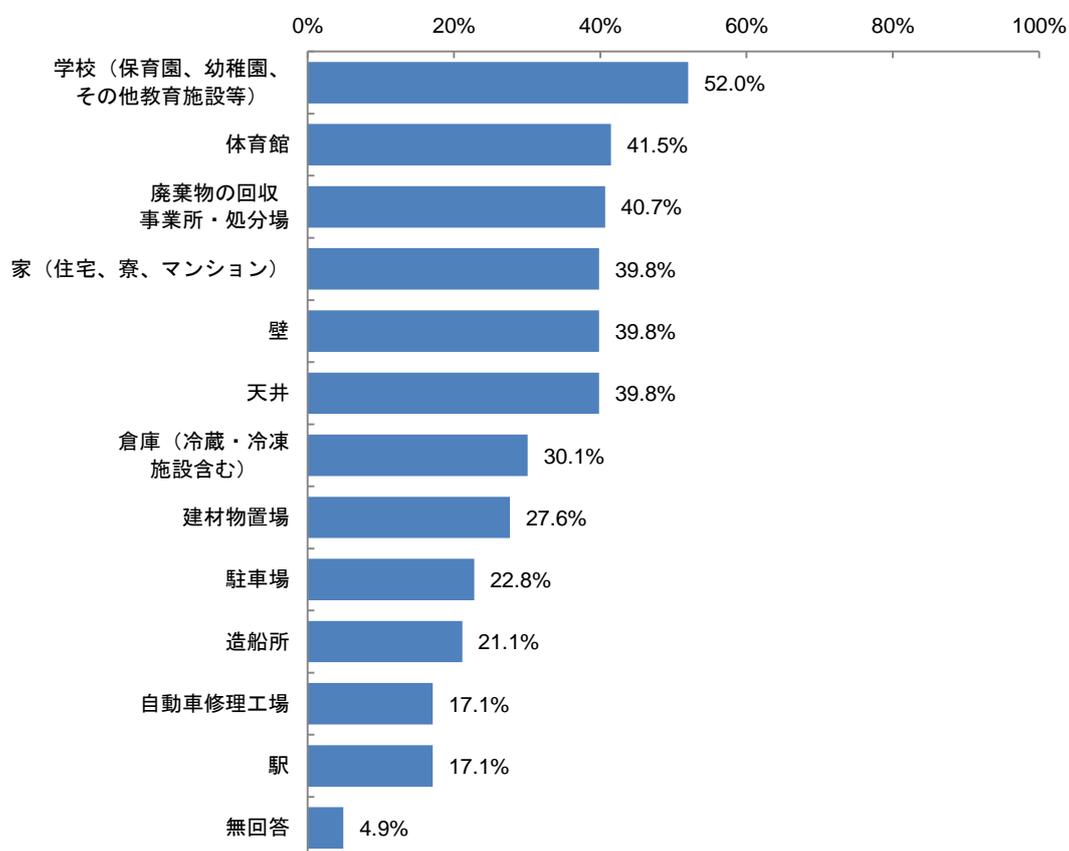
市町村別にみると、野田村では「見たことがある」方は0名だった。また、七ヶ浜町では「見たことがある」もしくは「あると思う」の占める割合が5割を超える。

《属性別集計》



問10 「アスベスト」または「石綿」があると思う場所や使われていると思う物が以下にありますか。【〇は該当するものいくつかでも】  
 (アスベストがあると思う場所や使われていると思うもの)

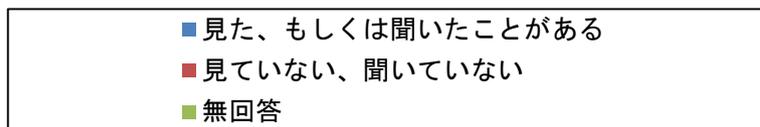
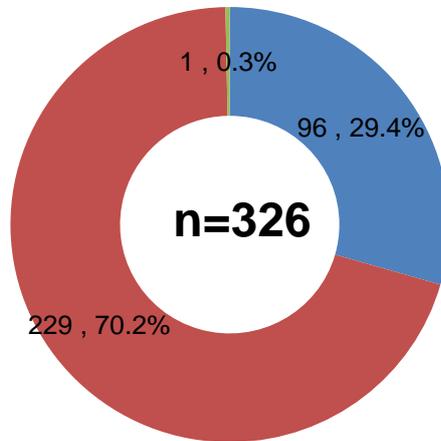
n=123



身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方に対して、あると思う場所や使われていると思うものを聞いたところ、「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」で使われていると思う方が64名（52.0%）と最も多く、次いで「体育館」（51名、41.5%）、「廃棄物の回収事業所・処分場」（50名、40.7%）と続く。

### 2.4.3 被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況

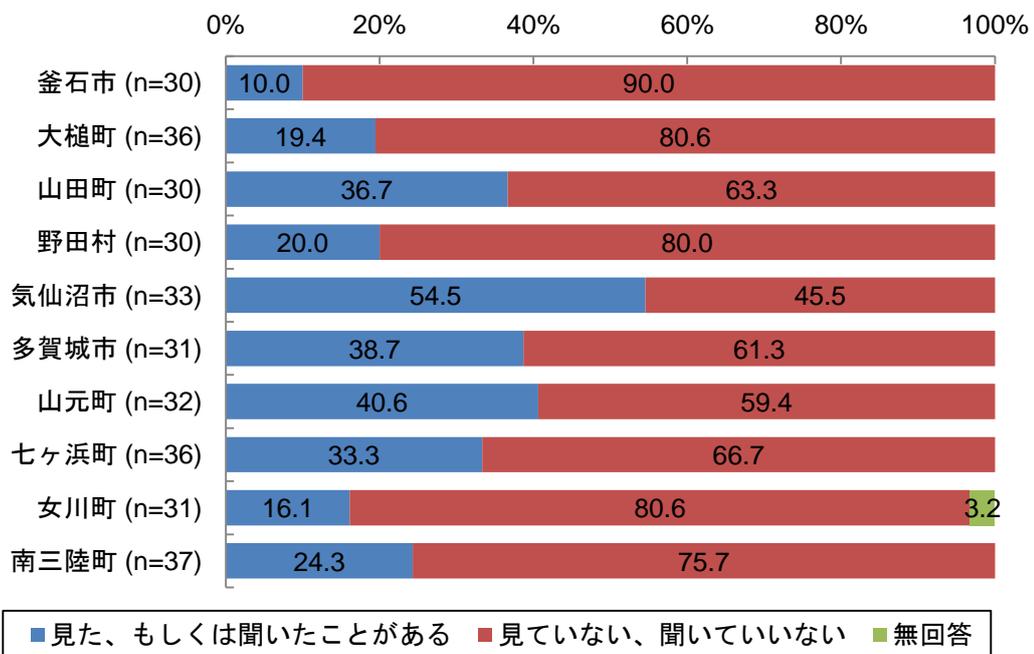
問 1 1 震災後にアスベスト対策に関する情報を見た、聞いたことがありますか。【〇は1つ】  
 (被災後のアスベスト対策に関する情報入手有無)



被災後にアスベスト対策について「見ていない、聞いていない」方が7割以上を占め、「見た、もしくは聞いたことがある」方は96名(3割弱)であった。

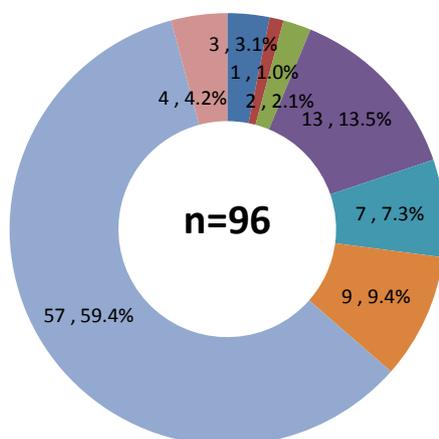
市町村別にみると、気仙沼市では「見た、もしくは聞いたことがある」方が5割を超える。

《属性別集計》



問 1 2-1 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて見た、聞いたのはいつですか。【〇はひとつ】

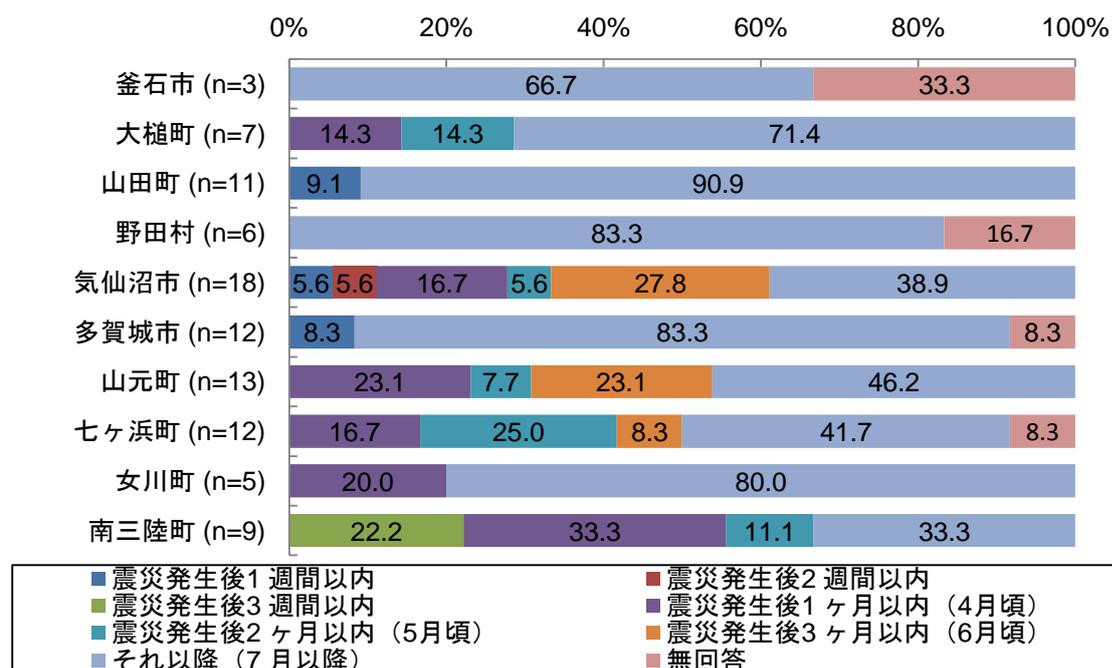
(情報の入手時期)



被災後にアスベスト対策について「見た、もしくは聞いたことがある」方の情報の入手時期は、7月以降に入手した方が57名(59.4%)と最も多く、震災発生から1ヶ月以内に入手した方は4分の1弱であった。

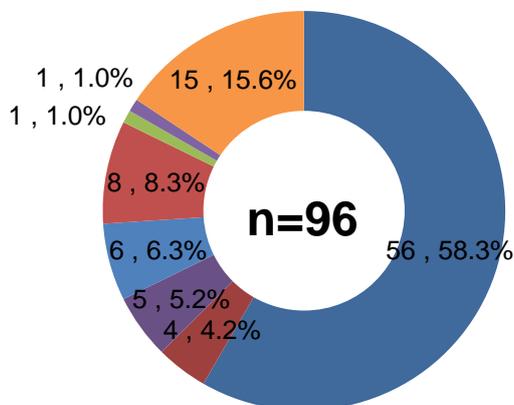
市町村別にみると、南三陸町では「震災発生後1ヶ月以内」までに入手した方が5割を超える。

《属性別集計》



問 1 2-2 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【初めに入手した先ひとつに◎、その後に入手した先で該当するものすべてに○】

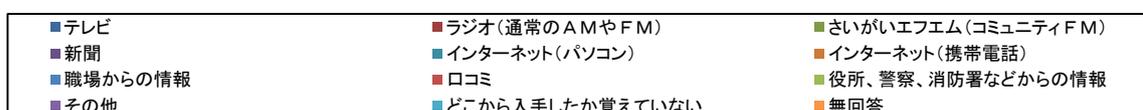
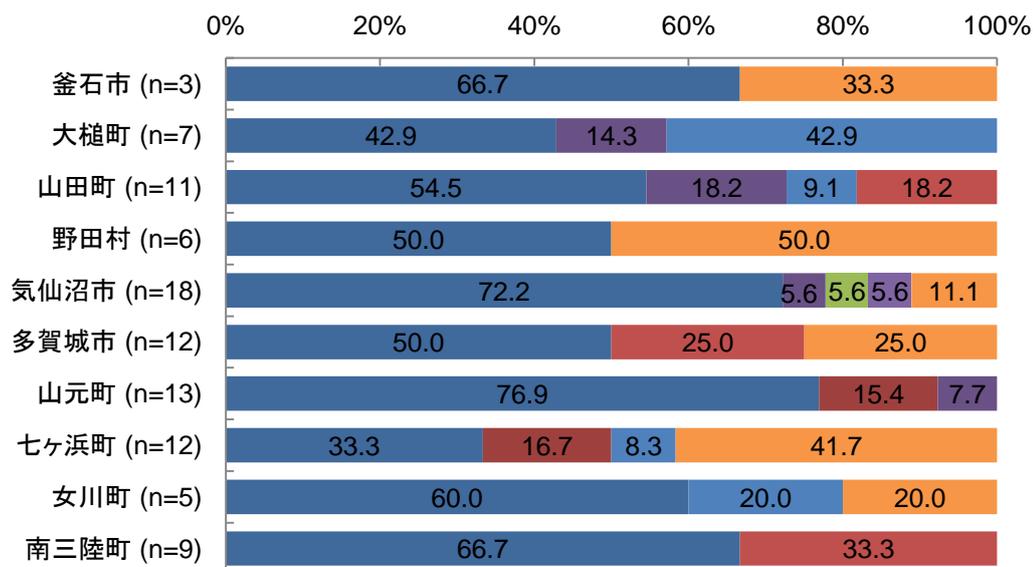
(情報の入手元：初めての入手先)



震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて入手した先としては「テレビ」が最も多く、5割を超えた。

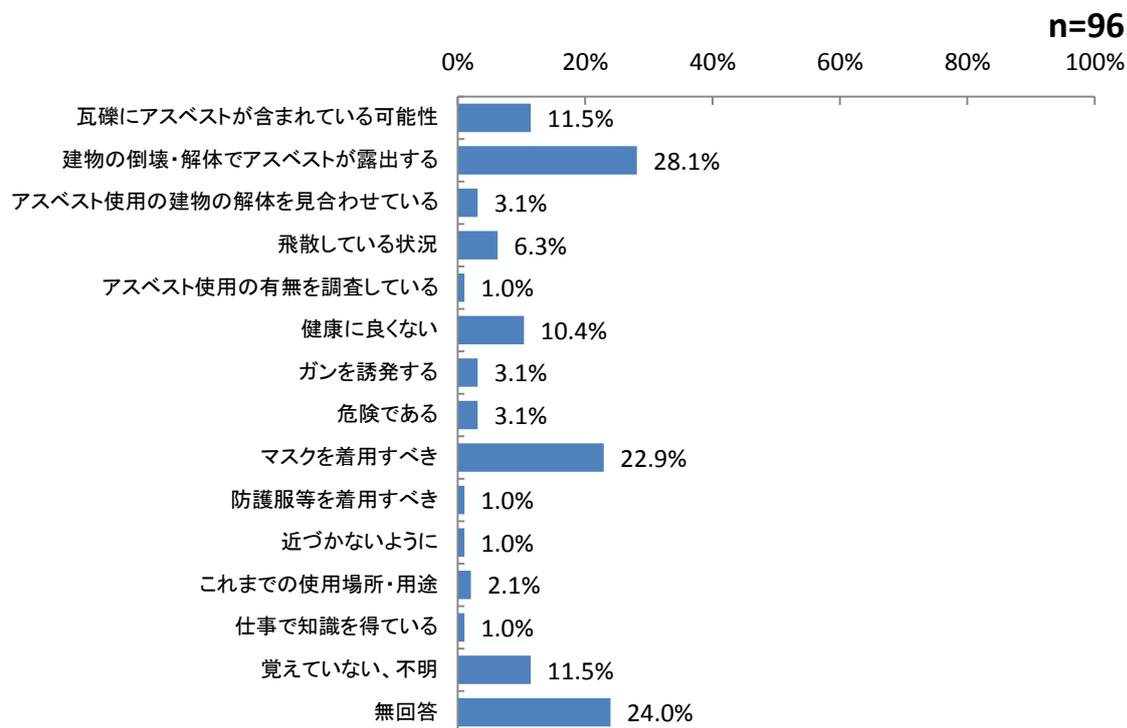
市町村別にみると、大槌町では「テレビ」及び「職場からの情報」が同率で最も多い。

《属性別集計》



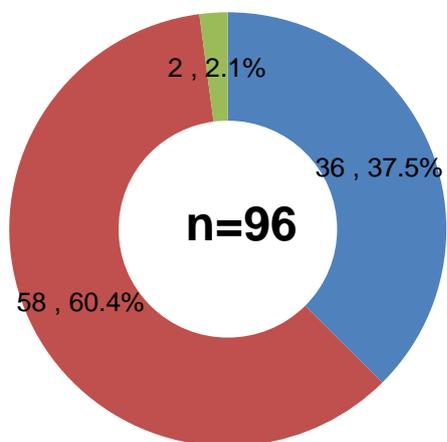
問 1 2-3 それほどのような内容でしたか。【自由記述】

(入手した情報の内容)



入手した情報の内容としては、建物の倒壊・解体によるアスベスト露出状況に関するものや、アスベストの危険性に関するもの、アスベストの吸入防止のための対処法などと多岐にわたる。

問1 2-4 それを聞いて、あなたは行動する際になにか気がつけたことはありましたか。【〇は1つ】  
 (行動の際に気がつけたこと)

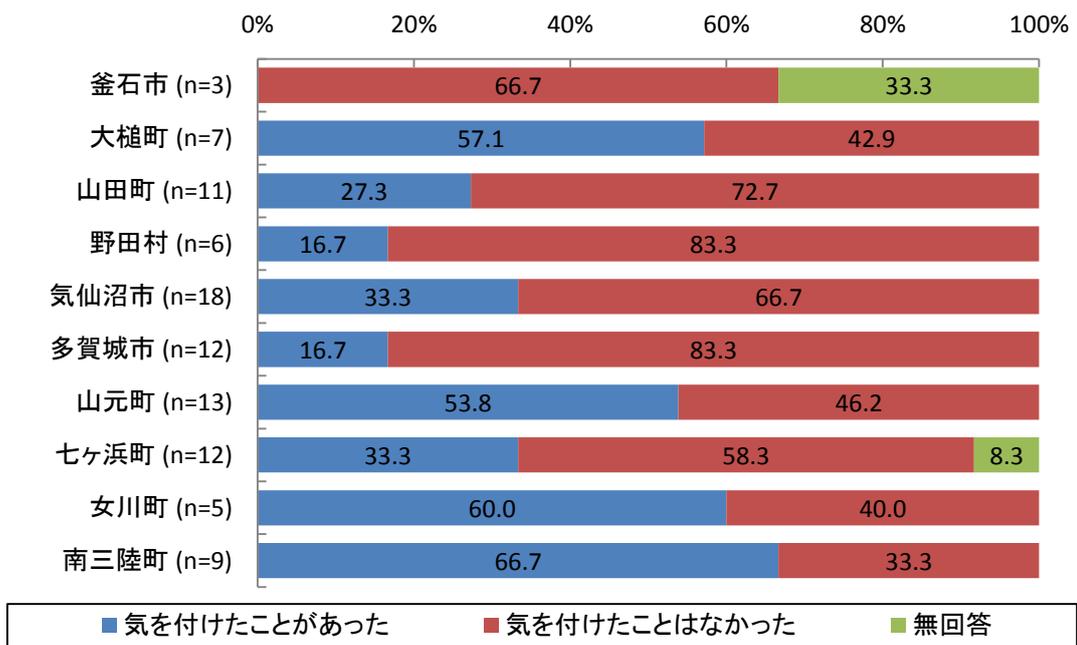


■ 気がつけたことがあった ■ 気がつけたことはなかった ■ 無回答

これらの情報を入手した際に、行動する際に「気がつけたことはなかった」方が半数以上を占める。

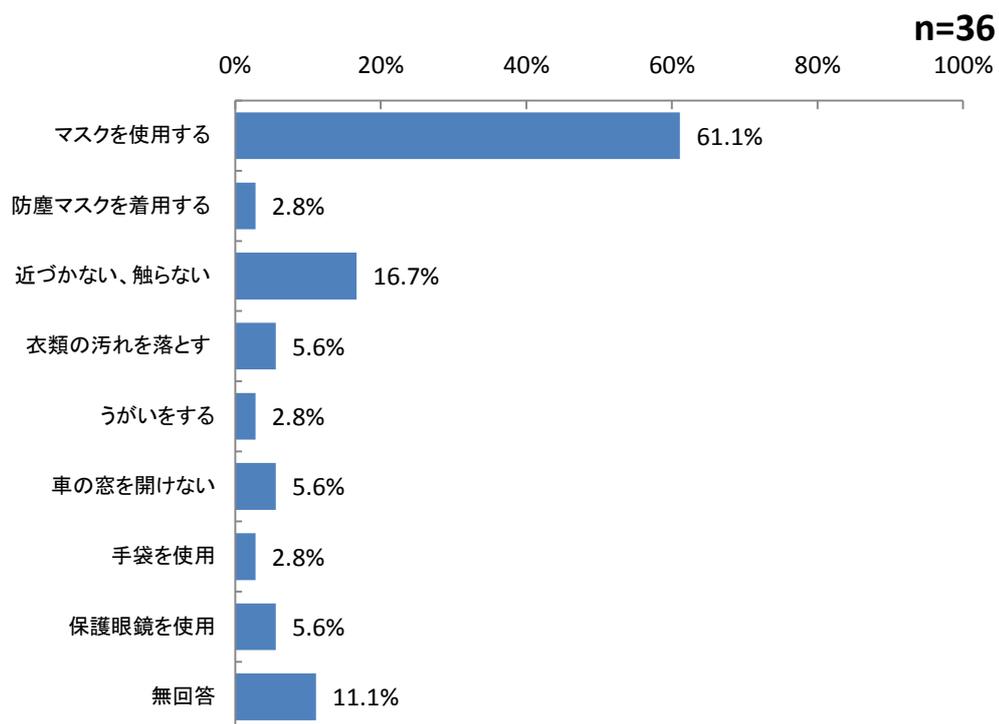
市町村別にみると、大槌町、山元町、女川町及び南三陸町では「気がつけたことがあった」方の占める割合が5割を超える。

《属性別集計》



■ 気を付けたことがあった ■ 気を付けたことはなかった ■ 無回答

(行動の際に気をつけたこと：具体的な内容)



これらの情報を入手した際に気を付けた内容として、マスクの着用が 22 名 (61.1%) と最も多く、次いで「近づかない、触らない」(6 名、16.7%)、「衣服の汚れを落とす」(2 名、5.6%)、「車の窓を開けない」(2 名、5.6%)、「保護眼鏡を使用」(2 名、5.6%) と続く。

#### 2.4.4 まとめ

アスベストに関して、9割以上の方が「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答しており、そのうち9割以上の方が震災前から「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答している。情報の入手時期としては2000年代が157名（51.6%）と最も多く、情報の入手元としては「テレビ」が9割を超える。

身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方は123名（37.7%）であった。具体的には、「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」が64名（52.0%）と最も多く、次いで「体育館」（51名、41.5%）、「廃棄物の回収事業所・処分場」（50名、40.7%）と続く。

また、被災後にアスベスト対策について「見た、もしくは聞いたことがある」方は3割弱（96名）で、情報の入手時期は7月以降が62.0%（57名）と最も多く、震災発生から1ヶ月以内に入手した方は2割以下であった。初めて情報を入手した先は「テレビ」が58.3%（56名）と最も多く、その内容はアスベストの処理に関するものや、アスベストの危険性に関するもの、アスベストの吸入防止のための対処法などと多岐にわたる。その情報を受けて行動する際に「気をつけたことがあった」方は4割弱（36名）で、具体的な内容としてはマスクの着用が7割（21名）を超え最も多かった。

### 3. まとめ

被災前の職業で、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が18名（9.9%）であった。

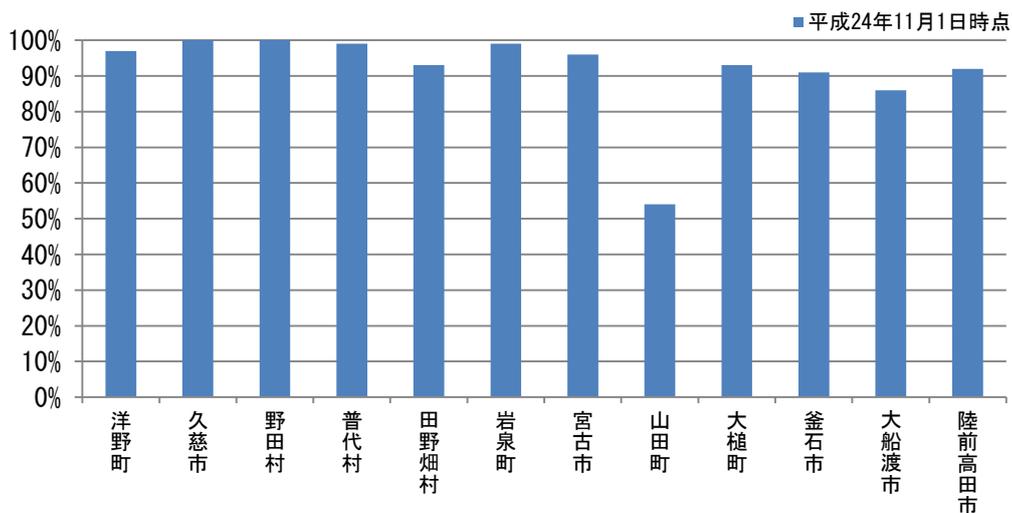
取扱った職業（作業）に従事していた年数については「1年未満」が最も多いが、「20年以上」の方も数名確認された。

被災直後から年末までの状況としては、生活の拠点としていた場所は5月までは「避難所」が最も多かったが、6月以降は「仮設住宅」が最も多かった。また、自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り状況は、3月中が7割程度で最も多く、時間が経過するにつれて徐々に減少していった。さらに、立ち入りの主目的は、期間を問わず「状況確認（様子を見に行っただけ）」が最も多かった。

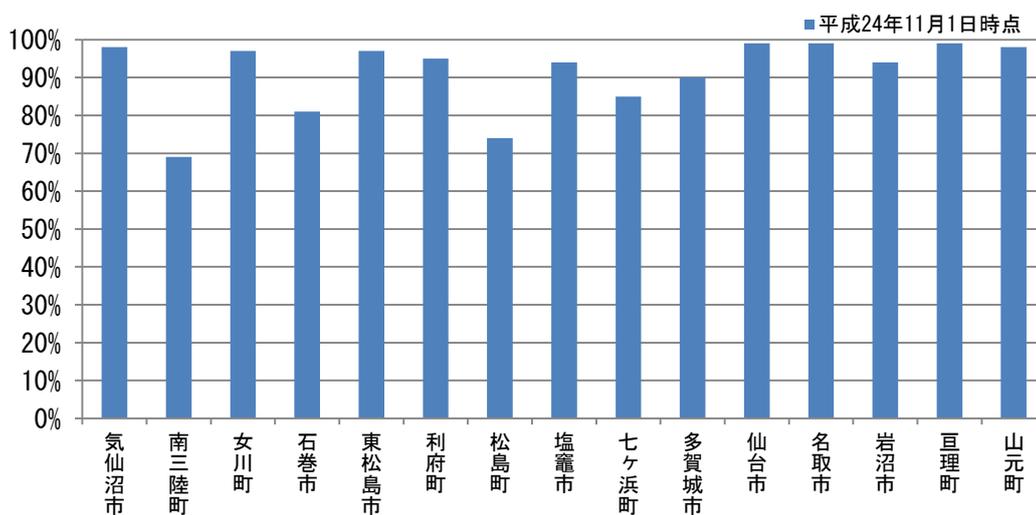
年明けから現在（H24.11~12月時点）までの行動については、被災現場での解体作業場や災害廃棄物仮置場等、作業現場の近くで作業をされたことがあった方は、期間を問わず10名弱であった。また、作業現場の近くを通ったことがあった方は、期間を問わず5割を超えた。

本調査対象の10市町村を含む沿岸市町村の震災後のがれき撤去状況について、平成24年11月時点の進捗状況を整理した。その結果は下表のとおりである。仮置場への搬入済み災害廃棄物の割合は、岩手県では本調査対象の山田町が最も低く60%を下回っており、他の市町村では80%を超えている。宮城県では、本調査対象の10市町村の中では気仙沼市、女川町及び山元町が97%以上と進んでいる一方、南三陸町は69%であり、これからさらに進んでいくことが想定される。

### 岩手県の仮置場への搬入済量の割合（％）



### 宮城県への搬入済量の割合（％）



出典：環境省 沿岸市町村の災害廃棄物処理の進捗状況

<http://www.env.go.jp/jishin/shori121214.pdf>

**参考資料1**

**挨拶状**

## アンケート調査・ご協力のお願い

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災では、建築物の倒壊等により、石綿（アスベスト）の飛散が懸念されていることから、大気濃度調査や防じんマスク着用の周知徹底など、石綿の飛散及びばく露防止のための対策が進められているところです。

現在までのところ、がれき集積所などでは通常の大気環境の状況と大きな変化はないことが確認されていますが、石綿による健康被害は、石綿を吸ってから非常に長い年月（35年前後）を経て発症することから、被災地の現状について情報収集を行うことが将来の健康相談の実施等に役立つものと考えられます。このため、被災地域に居住し被災された方々に、石綿ばく露に関連する情報である被災前の職歴や被災後の居住歴、避難所での生活の様子等をおたずねするアンケートを実施することとしました。

この調査では、皆様からの聞き取り調査の結果を取りまとめることにより、被災地における石綿ばく露の現状を記録するための貴重な基礎資料となります。何卒、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

尚、ご回答いただいた内容は、全て個人を特定されない形で取りまとめをさせていただく他、個人情報扱いについては十分な配慮を行い、本調査の趣旨以外の目的で使用することは一切ありません。

平成24年10月

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

● このアンケート調査についてご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

### ◆調査の進め方、内容等に関するお問合せ

(株)サーベイリサーチセンター 東北事務所

調査担当：太田、根本、佐藤 TEL：022-225-3871 FAX：022-225-3866

### ◆調査実施主体

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株)

担当：<sup>くつかわ</sup>沓川、油目、三好 TEL：03-3518-8431

### ◆委託元

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

担当：伊藤、高野 TEL：03-5521-6558

## **参考資料2**

### **調査票**

# アンケート調査票

平成24年10月 実施

## <記入上の注意>

1. ご本人がお答えください。氏名は記入しないでください。
2. ボールペン、または、濃い鉛筆でご記入ください。
3. お答えは、設問ごとに【○は一つ】、【○は該当するものいくつでも】など指定されていますので、当てはまる番号を○で囲んでください。
4. 特に指定のない設問は全員がお答えください。設問に矢印（……………➤）がある場合は、該当者のみ、その矢印にそってお進みください。
5. 「その他」を選択した場合は、その内容を具体的にご記入ください。
6. この調査票についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

### ◆調査の進め方、内容等に関するお問合せ

(株)サーベイリサーチセンター 東北事務所  
調査担当：太田、根本、佐藤 TEL：022-225-3871

### ◆調査主体

エム・アール・アイ くつかわ リサーチアソシエイツ（株）  
担当：沓川、油目、三好 TEL：03-3518-8431

### ◆委託元

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

## 被災前の状況についてお伺いします。

### 問1 被災前の居住地域をご回答ください。【〇は1つ】

- |                                   |                                  |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 同一市町内（地区名：                    ） | 3 県外（都道府県名：                    ） |
| 2 県内（市町村名：                    ）   |                                  |

### 問2 被災前の職業をご回答ください。【〇は1つ】

- |                 |                                  |
|-----------------|----------------------------------|
| 1 自営業           | 4 学生                             |
| 2 勤め人（パートタイム含む） | 5 無職                             |
| 3 主婦            | 6 その他（具体的に：                    ） |

＜問3は、問2で「1自営業、2勤め人（パートタイム含む）」と答えた方におたずねします。その他の方は、問5にお進みください。＞

### → 問3 被災前の職業（作業）で「アスベスト」または「石綿」を扱ったことがありますか。【〇は1つ】

- |  |
|--|
| 1 あると思う（具体的な作業内容：                    ） |
| 2 ないと思う                                |

＜問4は、問3で「1あると思う」と答えた方におたずねします。「2ないと思う」と答えた方は、問5にお進みください。＞

### → 問4 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業（作業）に従事していた年数（合計）をご回答ください。【〇は1つ】

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 1年未満      | 4 10年以上15年未満 |
| 2 1年以上5年未満  | 5 15年以上20年未満 |
| 3 5年以上10年未満 | 6 20年以上      |

**避難中の生活についてお伺いします。**

問5-1 被災直後から年末までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	平成 23年 3月中	平成 23年 4、5月 (GW前後)	平成 23年 6、7月 (お盆前)	平成 23年 8、9月
(1) 生活の拠点にしていた場所についてご回答ください。【滞在した時間が最も長い地点1つに◎、その他滞在した地点すべてに○】	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分: ) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ( )	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分: ) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ( )	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分: ) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ( )	1 自宅 2 避難所 (所在地: 、区分: ) 3 知人、親戚宅 4 仮設住宅 5 その他 ( )
(2) (1) で◎を選択した場所の被害状況についてご回答ください。【○は1つ】	1 一部損壊、半壊 2 大規模半壊、全壊 3 被害はなかった			
(3) (1) で◎を選択した場所の近くに、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊した以下の建物、構造物等がありましたか。【○は該当するものいくつかでも】	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ	1 建材物置場 2 自動車修理工場 3 廃棄物の回収事業所・処分場 (がれき集積所) 4 造船所 5 学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等) 6 体育館 7 駅 8 立体駐車場 9 倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む) 10 廃棄物の運搬道路等 11 上記の施設、構造物等は無かった→(6)へ
(4) (3) で選択した建物、構造物の近くを通ったり、近くで作業をした頻度をご回答ください。【○は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 近くを通ったり作業をしたことはない→(6)へ 9 不明
(5) (3) で選択した建物、構造物の近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことはありますか。【○は1つ】	1 気を付けたことがあった ( ) 2 気を付けたことはなかった			
(6) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入りをしていましたか。【○は1つ】	1 立ち入りをしていた →問5-2へ 2 立ち入りをしていない →問5-3へ			

＜問5-2は、問5-1(6)で「1 立ち入りをしていた」と答えた方におたずねします。「2 立ち入りをしていない」と答えた方は、引き続き問5-3をご回答ください。＞

問5-2 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	平成 23年 3月中	平成 23年 4、5月 (GW前後)	平成 23年 6、7月 (お盆前)	平成 23年 8、9月
(1) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度をご回答ください。【〇は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 不明
(2) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域で、実施された活動をご回答ください。【実施した時間が最も長い項目1つに◎、その他実施した項目すべてに〇】	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他( )	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他( )	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他( )	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋内への立ち入り、清掃、片付け 8 状況確認(様子を見に行っただけ) 9 その他( )
(3) (2)の項目について、活動形態をご回答ください。【〇は該当するものいくつかでも】	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他( )			
(4) 1回あたりの平均活動時間をご回答ください。【〇は1つ】	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明			

問5-3 年明けから現在までの生活状況についてお伺いします。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	平成 24年 1 2 3 月	平成 24年 4、 5 月 (GW 前後)	平成 24年 6、 7 月 (お盆 前)	平成 24年 8 月 ～ 現在
(1) 毎日の生活で多く時間をとっていたことは何ですか。【〇は1つ】	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 ( ) 12 何もしていない	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 ( ) 12 何もしていない	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 ( ) 12 何もしていない	1 仕事 2 家事 3 病院通い 4 友人・近所の人との語らい 5 子どもや孫の世話 6 テレビやラジオ 7 運動をして体を動かす 8 新聞や本を読む 9 趣味 10 社会的な活動 11 その他 ( ) 12 何もしていない
(2) 外出の頻度についてご回答ください。【〇は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 不明
(3) 次のような作業現場の近くを通ったり、近くで作業をしたことはありますか。【近くで作業をした項目すべてに◎、近くを通った項目すべてに〇】	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に： ) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ( )	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に： ) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ( )	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に： ) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ( )	1 被災現場での建物の解体、除去 (具体的に： ) 2 一次仮置場への災害廃棄物の搬入 3 一次仮置場での災害廃棄物の仮置き 4 一次仮置場での災害廃棄物の粗選別 5 二次仮置場での災害廃棄物の破碎・選別 6 二次仮置場、処理・処分先への災害廃棄物の運搬 7 その他 ( )
(4) (3) で選択した作業現場の近くを通ったり、近くで作業をした時に気を付けたことはありますか。【〇は1つ】	1 気を付けたことがあった ( ) 2 気を付けたことはなかった			

## 石綿（アスベスト）に関する意識についてお伺いします。

問6 「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして知っていますか。【〇は1つ】

- 1 知っている
- 2 聞いたことがある
- 3 聞いたことがない

＜問7は、問6で「1知っている」、「2聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「3聞いたことがない」と答えた方は、問9にお進みください。＞

→ 問7 「アスベスト」または「石綿」のことを知ったのはいつ頃ですか。

【〇は1つ】

- 1 震災発生前から（いつ頃ですか：                      年ころ）
- 2 震災発生後

＜問8は、問7で「1震災発生前から」と答えた方におたずねします。「2震災発生後」と答えた方は、問9にお進みください。＞

→ 問8 「アスベスト」または「石綿」に関する情報を入手した先はどちらでしたか。

【〇は該当するものいくつでも】

- |                 |                                    |
|-----------------|------------------------------------|
| 1 テレビ           | 6 ロコミ                              |
| 2 ラジオ（AMやFM）    | 7 職場からの情報                          |
| 3 新聞            | 8 役所、警察、消防署などからの情報                 |
| 4 インターネット（パソコン） | 9 その他（具体的に：                      ） |
| 5 インターネット（携帯電話） | 10 どこから入手したか覚えていない                 |

問9 あなたの身の回りに「アスベスト」または「石綿」があるでしょうか。

【〇は1つ】

- 1 見たことがある
- 2 あると思う
- 3 ないと思う

＜問10は、問9で「1見たことがある」、「2あると思う」と答えた方におたずねします。「3ないと思う」と答えた方は、問11にお進みください。＞

→ 問10 「アスベスト」または「石綿」があると思う場所や使われていると思う物が以下にありますか。【〇は該当するものいくつでも】

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1 造船所                  | 7 駅              |
| 2 建材物置場                | 8 駐車場            |
| 3 自動車修理工場              | 9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む）  |
| 4 廃棄物の回収事業所・処分場        | 10 家（住宅、寮、マンション） |
| 5 学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等） | 11 壁             |
| 6 体育館                  | 12 天井            |

問 1 1 震災後にアスベスト対策に関する情報を見た、聞いたことがありますか。

【〇は1つ】

- |                   |
|-------------------|
| 1 見た、もしくは聞いたことがある |
| 2 見ていない、聞いていない    |

＜問 1 2 は、問 1 1 で「1 見た、もしくは聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「2 見ていない、聞いていない」と答えた方は、F1にお進みください＞

→ 問 1 2-1 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて見た、聞いたのはいつですか。【〇はひとつ】

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 震災発生後 1 週間以内        | 5 震災発生後 2 ヶ月以内 (5 月頃) |
| 2 震災発生後 2 週間以内        | 6 震災発生後 3 ヶ月以内 (6 月頃) |
| 3 震災発生後 3 週間以内        | 7 それ以降 (7 月以降)        |
| 4 震災発生後 1 ヶ月以内 (4 月頃) |                       |

→ 問 1 2-2 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【初めに入手した先 1 つに◎、その後に入手した先で該当するものすべてに〇】

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1 テレビ                  | 7 職場からの情報          |
| 2 ラジオ (通常の AM や FM)    | 8 ロコミ              |
| 3 さいがいエフエム (コミュニティ FM) | 9 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 新聞                   | 10 その他 (具体的に: )    |
| 5 インターネット (パソコン)       | 11 どこから入手したか覚えていない |
| 6 インターネット (携帯電話)       |                    |

→ 問 1 2-3 それはどのような内容でしたか。【自由記述】


→ 問 1 2-4 それを聞いて、あなたは行動する際になにか気をつけたことはありましたか。【〇は1つ】

- |                          |
|--------------------------|
| 1 気をつけたことがあった (具体的な内容: ) |
| 2 気をつけたことはなかった           |

